

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年3月29日
【事業年度】	第13期（自平成29年4月1日至平成29年12月31日）
【会社名】	株式会社テラプローブ
【英訳名】	Tera Probe, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 渡辺 雄一郎
【本店の所在の場所】	神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目7番17号
【電話番号】	045(476)5711
【事務連絡者氏名】	執行役員CF0 神戸 一仁
【最寄りの連絡場所】	神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目7番17号
【電話番号】	045(476)5711
【事務連絡者氏名】	執行役員CF0 神戸 一仁
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第8期	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成29年12月
売上高 (千円)	21,306,278	21,668,747	21,303,665	22,731,110	18,812,783	17,869,444
経常利益 (千円)	101,234	783,349	1,306,015	2,555,391	2,539,876	1,790,772
親会社株主に帰属する 当期純利益又は 親会社株主に帰属する 当期純損失() (千円)	500,067	61,194	477,337	465,909	1,242,931	334,662
包括利益 (千円)	1,078,679	619,998	772,360	215,538	2,630,722	1,526,624
純資産額 (千円)	22,237,605	22,671,650	23,591,892	23,653,772	27,221,646	29,164,406
総資産額 (千円)	35,542,576	33,514,398	35,324,689	35,834,113	46,317,081	54,329,767
1株当たり純資産額 (円)	2,165.57	2,185.93	2,193.96	2,200.08	2,366.55	2,426.41
1株当たり当期純利益 金額又は1株当たり 当期純損失金額() (円)	53.87	6.59	51.42	50.19	133.90	36.05
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	56.6	60.5	57.7	57.0	47.4	41.5
自己資本利益率 (%)	2.5	0.3	-	2.3	5.9	1.5
株価収益率 (倍)	18.19	165.66	-	15.80	11.65	34.23
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	7,543,539	8,178,504	6,238,215	6,616,539	6,478,309	6,870,355
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,896,902	3,653,759	6,597,153	7,091,290	11,670,895	12,065,926
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	4,260,312	2,757,118	783,745	772,726	7,602,270	4,503,038
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	6,043,022	7,882,336	6,880,013	7,073,604	9,542,599	8,910,551
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	670 (131)	600 (101)	618 (104)	605 (135)	718 (189)	835 (289)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 自己資本利益率については、親会社に帰属する当期純損失の場合は記載しておりません。

4. 株価収益率については、第10期は、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

5. 第10期は、特別損失として事業構造改善費用等を計上した結果、親会社に帰属する当期純損失となりました。

6. 平成29年6月29日開催の第12期定時株主総会決議により、決算期を3月31日から12月31日に変更しました。従って、第13期は平成29年4月1日から平成29年12月31日の9ヶ月間となっております。

7. 第13期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、第12期の関連する主要な経営指標等について、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第8期	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成29年12月
売上高 (千円)	15,213,920	16,802,567	16,632,451	17,251,453	11,470,223	8,133,262
経常利益又は 経常損失 () (千円)	928,544	731,609	60,882	1,504,983	288,045	86,536
当期純利益又は 当期純損失 () (千円)	1,114,130	148,994	686,181	296,264	417,219	209,992
資本金 (千円)	11,823,312	11,823,312	11,823,312	11,823,312	11,823,312	11,823,312
発行済株式総数 (株)	9,282,500	9,282,500	9,282,500	9,282,500	9,282,500	9,282,500
純資産額 (千円)	19,618,391	19,469,358	18,931,058	19,262,887	19,644,499	19,434,506
総資産額 (千円)	28,775,273	27,658,617	26,286,194	25,652,836	25,338,624	26,098,569
1株当たり純資産額 (円)	2,113.49	2,097.45	2,039.46	2,071.38	2,116.33	2,093.70
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
1株当たり当期純利益金額 又は1株当たり当期純損失 金額 () (円)	120.03	16.05	73.92	31.92	44.95	22.62
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	68.2	70.4	72.0	75.0	77.5	74.5
自己資本利益率 (%)	5.8	-	-	1.6	2.1	-
株価収益率 (倍)	8.17	-	-	24.85	34.71	-
配当性向 (%)	-	-	-	-	-	-
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	317 (102)	433 (101)	410 (88)	365 (78)	274 (72)	291 (78)

- (注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 自己資本利益率については、当期純損失の場合は記載しておりません。
4. 株価収益率については、第9期及び第10期は、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。
5. 第10期は、特別損失として事業構造改善費用等を計上した結果、当期純損失となりました。
6. 当社は第9期において、株式会社テラミクロス(連結子会社)を吸収合併しました。
7. 平成29年6月29日開催の第12期定時株主総会決議により、決算期を3月31日から12月31日に変更しました。従って、第13期は平成29年4月1日から平成29年12月31日の9ヶ月間となっております。

2【沿革】

年月	事項
平成17年 8月	東京都中央区に当社設立。資本金1,000万円。
平成17年 9月	エルピーダメモリ株式会社（現マイクロメモリ ジャパン株式会社）、Kingston Technology Japan, LLC、Powertech Technology Inc.及び株式会社アドバンテストを割当先とする第三者割当増資を実施。新資本金56億円。 産業活力再生特別措置法(注1)に基づく「経営資源再活用計画」の認定取得。
平成17年10月	広島事業所（広島県東広島市）にてDRAM(注2)のウエハテスト事業（現メモリ事業）(注3)を開始。 開発センター（神奈川県相模原市中央区）にてテスト技術等の開発受託事業（現メモリ事業）を開始。
平成18年 5月	広島事業所にてエルピーダメモリ株式会社（現マイクロメモリ ジャパン株式会社）以外のウエハテスト事業（現メモリ事業）を開始。
平成18年 6月	広島事業所にてISO9001（品質マネジメントシステム）の認証取得。 熊本県葦北郡芦北町に九州事業所用地及び建物取得。
平成18年 9月	九州事業所を開設。ロジック製品のファイナルテスト事業（現システムLSI事業）(注3)を開始。
平成18年11月	九州事業所にてロジック製品のウエハテスト事業（現システムLSI事業）を開始。
平成19年 1月	九州事業所にてISO9001（品質マネジメントシステム）の認証取得。
平成19年 3月	神奈川県横浜市港北区に本社・開発センターを移転。 産業活力再生特別措置法の上記認定の取消し(注4)、及び同法に基づく「事業再構築計画」の認定取得。 吸収分割により広島エルピーダメモリ株式会社（現マイクロメモリ ジャパン株式会社）からウエハテスト事業（現メモリ事業）に関する設備・装置等を承継。新資本金96億円。
平成19年 4月	DRAM以外の半導体受託拡大を目指し、九州事業所にB棟竣工。
平成19年 9月	九州事業所B棟操業開始。
平成19年12月	ISO14001（環境マネジメントシステム）の認証取得。 ISO27001（情報セキュリティマネジメントシステム）の認証取得。
平成20年 8月	台湾新竹縣に台湾における事業拡大を目的として、Powertech Technology Inc.と合併で連結子会社TeraPower Technology Inc.を設立。
平成21年 3月	エルピーダメモリ株式会社（現マイクロメモリ ジャパン株式会社）の連結子会社となる。
平成21年 7月	九州事業所内にデバイス開発・評価サービスを提供する目的でテストセンターを開設。
平成22年 2月	事業部制を導入。メモリ事業部、システムLSI事業部を設置。
平成22年12月	東京証券取引所マザーズに株式を上場。 エルピーダメモリ株式会社（現マイクロメモリ ジャパン株式会社）の持株比率低下により持分法適用会社となる。
平成23年10月	カシオ計算機株式会社より株式会社テラミクロス（現青梅エレクトロニクス株式会社）の全株式を取得、連結子会社として、ウエハレベルパッケージ（WLP）の受託を開始。
平成24年 3月	OHS581214（労働安全衛生マネジメントシステム）の認証取得。
平成25年10月	株式会社テラミクロスを簡易合併し、青梅事業所（現青梅エレクトロニクス株式会社）とする。
平成26年 2月	先行技術開発室（現システムソリューションセンター）を設置し、ソフトウエア開発及び要素技術開発を開始。
平成26年 6月	本社・開発センター及び九州事業所にてISO/TS16949（自動車産業向け品質マネジメントシステム）の認証取得。
平成28年 1月	システムソリューションセンター（熊本県熊本市）を開設。
平成28年 4月	青梅事業所のウエハレベルパッケージに関する事業を、会社分割により青梅エレクトロニクス株式会社に承継し、同社の全株式をアオイ電子株式会社に譲渡。
平成29年 2月	会津富士通セミコンダクタープローブ株式会社（現株式会社テラプローブ会津）への出資比率を100%に変更、連結子会社化。

- (注) 1. 産業活力再生特別措置法：日本における経営資源の効率的な活用を通じて生産性の向上を実現するため、特別の措置として、事業者が実施する事業再構築、共同事業再編及び経営資源再活用を円滑化するための措置を雇用の安定等に配慮しつつ講じるとともに中小企業の活力の再生を支援するための措置を講じ、併せて事業者の経営資源の増大に資する研究活動の活性化等を図ることにより、日本産業の活力の再生を速やかに実現することを目的として平成11年に制定された法律です。
2. 「3 事業の内容 用語解説」をご参照ください。
3. 「3 事業の内容」をご参照ください。
4. 広島エルピーダメモリ株式会社（現マイクロメモリ ジャパン株式会社）からのウエハテスト承継の形態を、当初計画の営業譲渡から、吸収分割に変更したことに合わせた形で改めて認定を取得するため、平成17年9月に取得した認定の取り消しを受ける手続をとったものです。

3【事業の内容】

昨年（平成29年）6月より世界有数のOSAT（Outsourced Semiconductor Assembly and Test）企業であるPowertech Technology Inc.（以下「PTI」といいます）グループの一員となった当社グループは、当社（株式会社テラプローブ）及び海外連結子会社（TeraPower Technology Inc. 以下「テラパワー」といいます。）及び連結子会社（株式会社テラプローブ会津。以下、「テラプローブ会津」といいます。）により構成されており、半導体製造工程におけるウエハテスト及びファイナルテスト受託を主たる業務としております。

一般的に半導体製造工程は、ウエハ(*1)上に半導体チップを作り込む前工程(*2)と、半導体チップを組立しパッケージングする後工程(*3)に分類されます。この前工程で行う検査をウエハテストといい、後工程で行う検査をファイナルテストといいます。当社グループでは、どちらのテスト工程も受託しております。

ウエハテストとは、ダイシング(*4)前のウエハ状態で、ウエハ上に作り込まれた半導体チップの電気特性を検査し、良品・不良品の判別を行うものです。具体的には、回路が作り込まれたウエハ上の半導体チップにあるパッド(*5)の一つ一つに、プローブと呼ばれる細い探針を当てて電気信号を流し、半導体回路が設計どおりに機能しているかをテスタ(*6)、プローバ(*7)等の装置を用いて電氣的に検査します。

さらに当社は、蓄積したノウハウを利用したプログラムの改良を提案し、顧客から支給されたテストプログラムを基に多数個同時測定用プログラムを開発したり、プローブカード(*8)設計を受託することなどによって、一回のテストでより多くの半導体チップを検査できるようにし、テスト効率を上げることで、顧客のウエハテストのコスト低減に貢献しております。

ファイナルテストとは、組立終了後のパッケージ状態で設計どおりに機能するかどうかの検査のほか、最終製品の外観異常の有無を検査するパッケージ外観検査などを含みます。

なお、当社グループではシステムソリューションセンター（熊本県熊本市）において、画像処理技術を応用したソフトウェア開発や、生体信号を使用したヒューマンインターフェース技術の研究を行っております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。

(1) メモリ事業

当社グループのメモリ事業の主な業務はDRAM(*9)のウエハテスト業務の受託であり、主に広島事業所とテラパワーで行っております。当社グループは、日本国内の半導体メーカーや、海外の半導体メーカー、ファブレス等からウエハテストを受託しております。

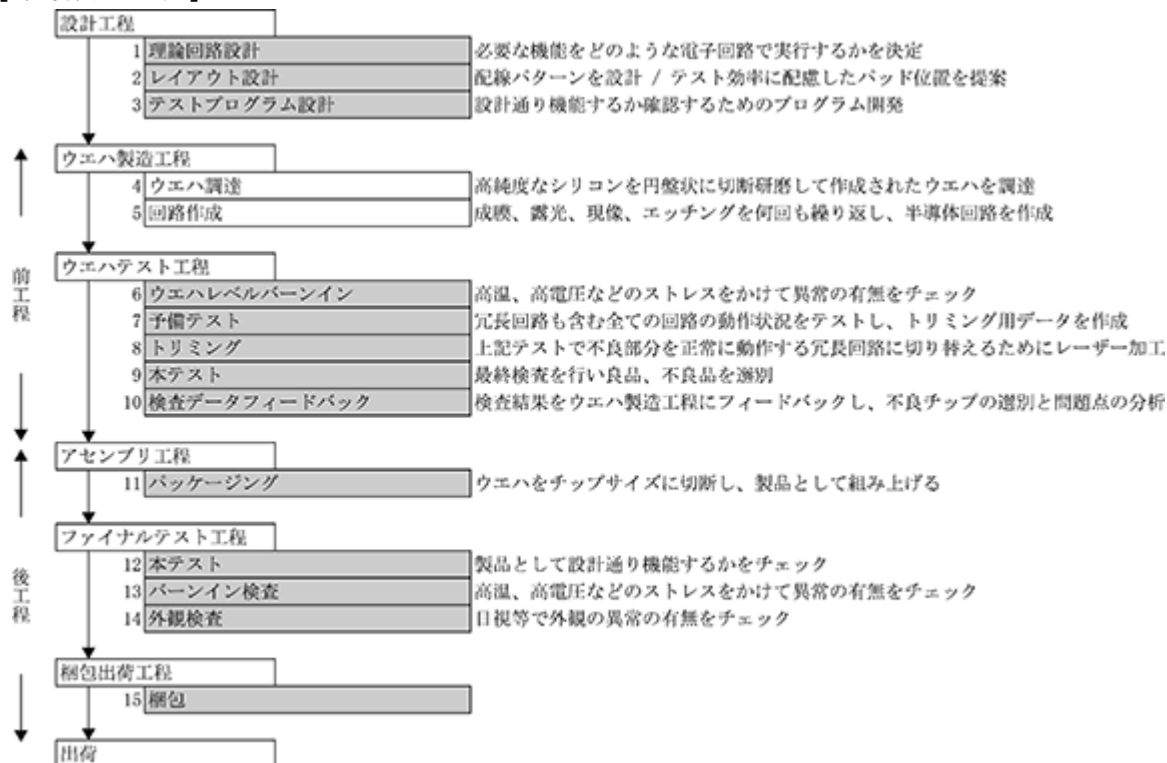
一般的にウエハテストは、上記のように顧客から支給されたテストプログラムを使用して、ウエハ上に作り込まれた半導体チップの電気特性をテストし、良品・不良品の判別を行い、その結果を顧客に提供して業務が完了します。これに加え、一部のメモリ向けには、ウエハ1枚からより多くの半導体チップを製品化できるように、半導体チップにレーザーを用いた加工を施すサービスの提供も行っております。

(2) システムLSI事業

当社グループのシステムLSI事業では、国内外の半導体メーカーやファブダリが生産したSoC(*10)、マイコン(*11)、イメージセンサ(*12)、アナログ(*13)などの半導体製品のウエハテスト業務の受託が中心で、その他にファイナルテスト業務も受託しており、主に九州事業所、テラパワー、テラプローブ会津で行っています。さらに、九州事業所とテラパワーの双方において、自動車産業向け品質マネジメントシステム（ISO/TS16949）の認証を取得しており、日本と台湾の両拠点で高品質が要求される車載半導体のテスト受託を強化してまいります。

システムLSI事業におけるウエハテストも、一般的には顧客から支給されたテストプログラムを使用してテストし、ウエハ上に作り込まれた半導体チップの特性について、良品・不良品の判別を行い、その結果を顧客に提供して業務が完了します。システムLSI事業における受託製品はメモリ事業と比較すると多品種少量生産の場合が多く、製品によりテスト機器やテスト環境が異なるなどの特徴があります。そのため顧客の様々なニーズに対応していく技術力と柔軟性が求められております。

[半導体製造工程]

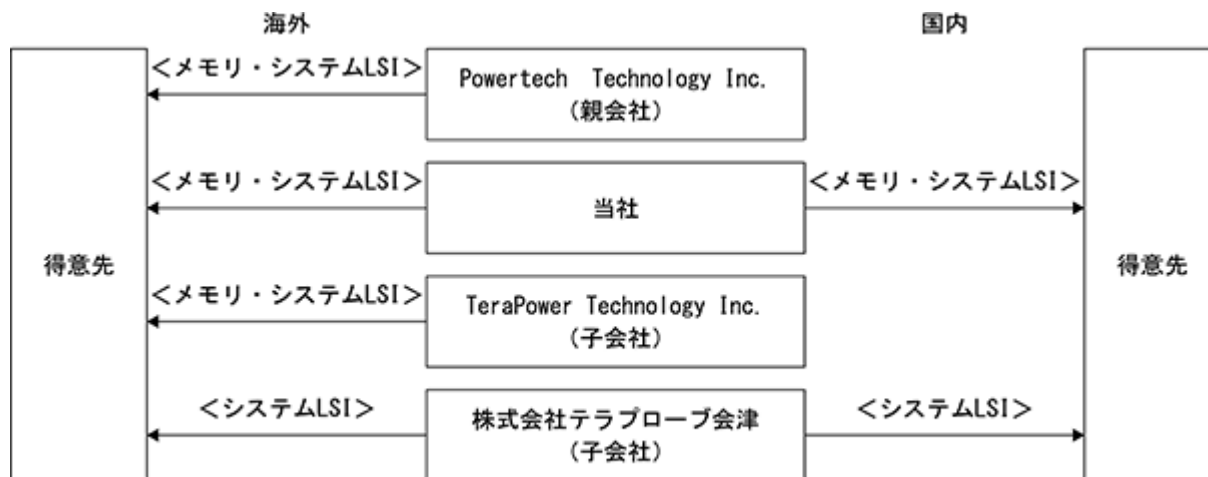


(注) 上記工程図内のウエハテスト工程(6～10)は、メモリ製品のウエハテスト工程を記載しております。

以上に述べた事項を事業系統図に示すと次のとおりです。

[事業系統図]

平成29年12月31日現在



(注) Powertech Technology Inc. は、平成29年6月5日付で当社の親会社となっております。

用語解説

- (*1)ウエハ：ウエハは単結晶シリコンの塊（インゴット）から薄く切り出された円盤状のものの表面を研磨した薄い板で、半導体チップを製造するための直接材料となるものです。このウエハ上にトランジスタ、キャパシタ（電荷を蓄える部品：コンデンサ）、配線などを作り込み、電子回路を形成します。
直径は200mm（8インチ）、300mm（12インチ）が一般的で、大口径化するにつれウエハ1枚当たりから取れる半導体チップ数が多くなりコストダウンにつながります。半導体チップ面積が同じであれば、300mmウエハは200mmウエハの2倍程度のチップの生産が可能です。
- (*2)前工程：一般的に半導体製造工程のうち、ウエハ上に半導体チップを作り込み、ウエハ状態で検査し、良品・不良品の判別をするまでの工程を指します。
- (*3)後工程：一般的に半導体製造工程のうち、前工程以降の半導体チップをパッケージングし、個々の半導体デバイスを検査し、不良品を除去するまでの工程を指します。
- (*4)ダイシング：ウエハ上に作られた半導体チップを、ダイヤモンド刃のカッターなどで個々の半導体チップに切り離すことを指します。
- (*5)パッド：半導体チップ上に形成された端子（電極）を指します。この端子に探針（プローブ）を当て、半導体の電気特性を測定します。
- (*6)テスト：半導体の電気特性を検査するための装置です。テストプログラムに基づき、直流、交流特性並びに機能について検査を行います。
- (*7)プローバ：プローブカードを装着し、テストに接続して使用します。ウエハを1枚ずつ出し入れし、ウエハを移動しながら半導体チップのパッドにプローブを接触させる装置です。
- (*8)プローブカード：ウエハテストにおいて、半導体チップの電氣的検査をするために用いられる接続治具（探針）です。半導体チップのパッド（電極）とテストとを接続する役割を持ち、パッドに探針（プローブ）を接触させることにより、半導体チップの電氣的検査を行い良否判定をします。
半導体チップのパッド位置に合わせてプローブの配置も変わるため、製品毎に専用のプローブカードが必要となります。
- (*9)DRAM（Dynamic Random Access Memory）：DRAMは、記憶単位が1個のトランジスタと1個のキャパシタ（電荷を蓄える部品：コンデンサ）で構成される半導体で、集積度に優れています。このためビット単価も安く、大容量のメモリを必要とするシステムを中心に使用されます。DRAMは情報をキャパシタに電荷で蓄えるため、微少の漏れ電流によって長時間放置すると情報が失われます。このため定期的に同一情報を再書き込みする必要があります。
- (*10)SoC（System on Chip）：一つの半導体チップ上に、必要とされる一連の機能（システム）を集積したものを指します。複数の機能を1チップ上に集積することで、基板上に複数の単機能LSIを実装するよりも機器自体の小型化が可能になるなどのメリットがあります。
- (*11)マイコン：家電製品や電子機器の制御などに使われる、一つの半導体チップにコンピュータシステム全体を集積した半導体で、パソコンなどに内蔵されるマイクロプロセッサに比べ機能はシンプルで性能も低いですが、安価でシステム全体の基板面積や部品点数、消費電力を少なく抑えることができます。
- (*12)イメージセンサ：画像を電気信号に変換する半導体素子を指します。デジタルカメラをはじめ、携帯電話などにも広く使用されています。CCD、CMOSなど構造によりいくつかの種類があります。
- (*13)アナログ：無線通信用半導体や電源制御用半導体、アナログデータをデジタルデータに変換するコンバータなど多くの種類があります。
- (*14)MEMS（Micro Electro Mechanical Systems）：機械要素部品（稼動する部品）、センサ、電子回路などを一つの基板上に集積化したデバイスを指します。製品として市販されている物としては、インクジェットプリンタのヘッド、圧力センサ、加速度センサ、DMD（プロジェクタ）、電子コンパスなどがあります。

4【関係会社の状況】

平成29年12月31日現在

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合 又は被所有割合 (%)	関係内容
(親会社) Powertech Technology Inc.	台湾 新竹縣	NT\$7,791百万	半導体の開発、設計、製造、販売	直接所有 11.6 間接所有 47.8	役員の兼任 4名
(その他の関係会社) 力成科技日本合同会社	東京都千代田区	5	株式の保有による事業活動の支配及び管理等	直接所有 47.8	
(連結子会社) TeraPower Technology Inc.	台湾 新竹縣	NT\$1,335百万	半導体ウエハテスト受託	所有 51.0	役員の兼任 3名
(連結子会社) (株)テラプローブ会津	福島県会津若松市	45	半導体ウエハテスト受託	所有 100.0	テスト業務委託役員の兼任 4名

(注) 1. Powertech Technology Inc.は当社のその他の関係会社である力成科技日本合同会社の株式を100%保有する親会社であります。

2. TeraPower Technology Inc.は、売上高の連結売上高に占める割合が10%を超えています。

主要な損益情報等	(1) 売上高	8,274百万円
	(2) 経常利益	2,031百万円
	(3) 当期純利益	1,634百万円
	(4) 純資産額	13,335百万円
	(5) 総資産額	31,835百万円

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成29年12月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
メモリ事業	291 (89)
システムLSI事業	423 (192)
全社(共通)	121 (8)
合計	835 (289)

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含みます。)であり、嘱託社員及び派遣社員は、当連結会計年度末までの1年間の平均人員を()外数で記載しております。
2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定の事業に区分できない管理部門に所属しているものです。

(2) 提出会社の状況

平成29年12月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
291 (78)	41.5	6.7	6,326

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含みます。)であり、嘱託社員及び派遣社員は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
2. 従業員のセグメント毎の内訳は、以下のとおりとなります。臨時雇用者数は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
- | | |
|-----------|-----------|
| メモリ事業 | 103名(27名) |
| システムLSI事業 | 130名(46名) |
| 全社(共通) | 58名(5名) |
3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

(株)テラプロープに労働組合は結成されておりませんが、(株)テラプロープ会津に労働組合が結成されております。なお、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当社は、平成29年6月29日開催の第12期定時株主総会の決議により、事業年度末日を従来の3月31日から12月31日に変更いたしました。これにより、当第13期事業年度が平成29年4月1日から平成29年12月31日までの9ヶ月となったため、当連結会計年度においては、業績に関する前期比増減の記載を省略しております。

当連結会計年度においては、車載用製品の需要が好調であったことや、株式会社テラプローブ会津を完全子会社化したことなどから、売上高は17,869百万円、営業利益は1,845百万円、経常利益は1,790百万円となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は334百万円となりました。これは、台湾子会社の業績が好調だったことで非支配株主に帰属する当期純利益が817百万円となったことなどによるものです。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。なお、セグメント別の業績には連結調整、為替換算レート調整額及びセグメント別に配分されない費用を含んでおりません。

(メモリ事業)

当連結会計年度においては、高性能スマートフォン用製品や車載用製品の受託量は増えたものの、主要顧客の製品ミックスの変化の継続による影響が大きく、売上高は8,386百万円、セグメント利益は1,437百万円となりました。

(システムLSI事業)

当連結会計年度においては、株式会社テラプローブ会津を完全子会社化したことや、車載用製品の受託量が大幅に増えたことなどから、売上高は9,333百万円、セグメント利益は1,657百万円となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は8,910百万円となり、前連結会計年度末比632百万円の減少となりました。

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、6,870百万円の純収入となりました。これは主に、減価償却費の計上5,338百万円及び税金等調整前当期純利益の計上1,735百万円により資金が増加したことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、12,065百万円の純支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出12,751百万円により資金が減少したことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、4,503百万円の純収入となりました。これは主に、設備投資資金の調達等で借入金による収入が長短合わせて19,293百万円あったことにより資金が増加した一方、借入金の返済による支出が長短合わせて14,744百万円あったことにより資金が減少したことによるものです。

（参考）キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成26年 3月期	平成27年 3月期	平成28年 3月期	平成29年 3月期	平成29年 12月期
自己資本比率（％）	60.5	57.7	57.0	47.4	41.5
時価ベースの自己資本比率（％）	30.2	29.1	20.5	31.3	21.1
キャッシュ・フロー対有利子負債比率（年）	0.81	1.00	1.03	2.17	2.69
インタレスト・カバレッジ・レシオ（倍）	64.8	59.8	69.6	59.8	54.2

自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー / 利払い

（注1）いずれも連結ベースの財務数値により計算しています。

（注2）株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しています。

（注3）キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

（注4）有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としております。

（注5）平成29年6月29日開催の第12期定時株主総会決議により、決算期を3月31日から12月31日に変更しました。従って、平成29年12月期は平成29年4月1日から平成29年12月31日の9ヶ月間となっております。

（注6）平成29年12月期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、平成29年3月期の連結財務諸表について、暫定的な会計処理の確定の内容を反映しております。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当社グループの生産品はその大部分が入庫後すぐに顧客のもとへ出荷されているため、生産実績は販売実績とほぼ同額となります。従いまして、生産実績の記載はしていません。下記(3)販売実績をご参照ください。

(2) 受注状況

当社グループの取引形態においては、当月の受注のほとんどが、同月中に出荷完了しているため、受注実績は販売実績とほぼ同額となります。従いまして、受注状況の記載はしていません。下記(3)販売実績をご参照ください。

(3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
メモリ事業	8,386,645	
システムLSI事業	9,333,637	
調整額 (注1)	149,161	
合計	17,869,444	

- (注) 1. 調整額は、円換算に用いた為替相場の相違による差異調整額、及び連結消去であります。
2. 平成29年12月期は決算期の変更により、4月1日から12月31日の9ヶ月の決算期間となっております。このため、前年同期比は記載していません。
3. 前連結会計年度及び当連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。
なお、当該割合が100分の10未満の場合は記載を省略しております。

相手先	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
マイクロンメモリ ジャパン(株)	5,843,561	31.1	3,410,455	19.1
ルネサス エレクトロニクス(株)	1,726,803	9.2	2,792,010	15.6
Cypress Semiconductor Corporation	865,950	4.6	1,824,508	10.2

4. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

半導体製品は、情報通信・自動車など、現代の社会において無くてはならないものとなり、今後もより一層の市場拡大が期待されております。一方、この成長市場におけるグローバルな企業間の競争はこれまで以上に激しくなっております。また、近年の半導体市場を牽引してきたスマートフォンの成長には陰りが出てきております。

このように機会と脅威が交錯する環境のなか、当社グループは、グローバルに飛躍し続ける企業への変革を目指し、昨年（平成29年）6月より世界有数のOSAT企業であるPTIグループの一員となり、以下のような取り組みを進めております。

顧客との長期的な関係の強化

テスト開発から量産まで高い品質のサービスを提供することのみならず、ソフトウェアを含めた様々なソリューションを提供することで顧客製品の価値向上に貢献し、顧客にとって信頼できるパートナーとして長期的な関係を強化してまいります。

ターンキーサービスの提供

顧客により多くの選択肢とより良いサービスを提供し、顧客にとって当社グループの価値を高めていくため、ターンキーサービスの提供に努めてまいります。

テスト技術の開発と人材育成

半導体の設計や製造の高度化に伴い、テストサービスにおいてもより高度な技術が求められています。先進のテスト技術の開発を進めるとともに、これを支えるテストエンジニアの育成に努めてまいります。

生産性の向上

国内においては、本年（平成30年）6月末までに広島事業所から退去し、主に九州事業所への移転を行う計画です。また、台湾においては現在建設中の新棟が今年度から新たに稼働を開始する予定です。当社グループ全体の人員配置を随時最適化するとともに、最新技術を取り入れた積極的な生産性の向上を進めてまいります。

4【事業等のリスク】

本書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

当社グループは、これらのリスクの発生の回避および発生した場合の対応に努めております。なお、以下に記載された事項は、当社グループのすべてのリスクを網羅するものではありません。また、文中の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 主に外部環境に由来するリスク

経済状況について

当社グループが業務を受託する半導体製品は、スマートフォンなどのモバイル機器を中心に、PC、デジタル家電、車載用途など幅広い分野で使用されております。これらの最終製品の市場動向、顧客の生産動向、同業他社との競争、為替相場の変動等といった当社グループを取り巻く経済状況の変化は、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

資金について

当社グループの事業は設備投資に多額の資金が必要であり、現状の事業計画においても新たなビジネスの獲得に伴う設備投資が予定されています。また、設備投資以外に負債の返済やM&Aに関わる資金需要が発生する可能性もあります。これらの資金需要に関して、必要な資金の確保は可能であると判断しておりますが、経済環境の急激な変動等により予定していた資金の確保ができない場合や資金調達コストが増加する場合、当社グループの事業展開、財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

技術革新の影響について

当社グループの属する半導体業界は、技術革新の速度が非常に速く、製品の高機能化、低価格化が急激に進行するという特徴があります。このため、新たな技術開発がなされた場合、当社グループの保有する設備、技術が陳腐化する可能性があり、その場合、当社グループの事業展開、財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

自然災害等について

当社グループの事業拠点は、主に神奈川県横浜市港北区、広島県東広島市、熊本県葦北郡芦北町、熊本県熊本市、福島県会津若松市及び台湾新竹縣に立地しており、当地及びその周辺で地震、台風等の自然災害、事故又はその他当社グループがコントロールできない事象が発生した場合、操業の停止等様々な損害を受ける可能性があります。当社はBCM（事業継続マネジメント）活動に取り組んで上記損害の影響軽減に努めており、さらに損害保険にも加入しておりますが、考える全ての損失について保険に加入しているわけではなく、当社グループの受ける損失の全てが保険により補填される保証はありません。そのため、上記のような事象が発生した場合、当社グループの事業展開、財政状態及び経営成績に重大な悪影響を及ぼす可能性があります。

(2) 主に事業運営に由来するリスク

特定顧客への依存について

当社グループは、米国のMicron Technology, Inc.（以下、MTI）の100%子会社であるマイクロンメモリ ジャパン株式会社（旧エルピーダメモリ株式会社）を主要顧客として事業を展開しております。当社グループにおけるMicronグループへの売上高比率は年々低下しており、以下のような推移となっております。

	平成27年3月期	平成28年3月期	平成29年3月期	平成29年12月期
売上高比率	51.6%	41.6%	36.3%	25.3%
内、マイクロンメモリ ジャパン(株)分	45.0%	35.6%	31.1%	19.1%

マイクロンメモリ ジャパン株式会社を中心としたMicronグループが、生産数量や生産品種の見直しを行うことにより、当社グループへのテスト業務の委託を大きく減少させた場合には、当社グループの事業展開、財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

なお、平成29年4月14日に公表いたしました「事業譲渡及び重要な契約等の終了予定に関するお知らせ」に記載のとおり、マイクロンメモリ ジャパン株式会社に対する半導体テストサービス事業については、平成30年5月1日に約35百万米ドルで譲渡する予定です。

また当社グループが業務を受託しているその他の大手顧客のいずれかが、当社グループへのテスト業務の委託等を大きく減少させた場合、又は何らかの理由により顧客の事業環境に大きな変化が生じた場合等には、当社グループの事業展開、財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

固定資産の減損について

当社グループは、半導体検査装置を中心に多くの固定資産を保有しております。また、固定資産の連結貸借対照表計上額は、会計基準に則り必要に応じて、対象資産の将来キャッシュ・フローを見積もり、回収可能性を評価しております。稼働率の低下など何らかの要因で、将来キャッシュ・フローの見込みや割引率に用いる加重平均資本コストが変動し、十分なキャッシュ・フローまたはその現在価値が確保できない見込みとなった場合には、減損の認識が必要となり、当社グループの経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

人材の確保について

当社グループの円滑な事業運営には、各分野の優秀な人材確保が必要不可欠となっております。しかしながら、人材確保の難易度は年々増しております。新たな人材の獲得ができない又は優秀な人材が流出してしまう場合、当社グループの経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

特定サプライヤーへの依存について

当社グループは、事業に使用する設備、治工具等について、多数の外部の取引先から調達しております。しかしながら、設備、治工具等の中には特定の供給元からしか入手できないものも含まれているため、需給が逼迫した場合の供給能力不足や供給元の事故等により、これらを適切なタイミングで調達できない可能性があります。また、調達できる場合でも調達価格が大幅に上昇するなど、当社グループの事業活動に支障が生じ、当社グループの事業展開、財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

顧客資産管理について

当社グループは顧客の製品であるウエハや顧客の資産であるプローブカードやテスト等の支給を受けて業務を行っております。これらの製品及びプローブカードやテスト等は高価であり、その扱いには細心の注意を払っておりますが、事故等でこれらを破損した場合、その損害を負担する可能性があります。当社グループは、保険契約によりこのような事態に対して備えておりますが、全ての補償を可能にするものではなく、事故等の発生により当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

また、顧客の資産を破損した場合、顧客の信用を失い、業務の受託が極端に減少する可能性があり、その場合、当社グループの経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

情報管理について

当社グループは顧客からの業務受託にあたり、テストプログラムなど顧客の重要情報を取り扱っております。当社は、安定したサービスを提供し続けられる情報システムの構築と運用に努め、情報管理を徹底しておりますが、不正アクセスによる情報漏洩やシステム障害等が発生した場合、当社グループの経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

品質について

当社グループは顧客からの業務受託にあたり、要求された品質を満たすべく注力しております。しかしながら、顧客の要求する品質を満たせない状況が発生した場合、顧客の信用を失い、業務の受託が極端に減少する可能性があり、その場合、当社グループの経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

広島事業所の移転について

当社は、マイクロンメモリ ジャパン株式会社からの要請を受けて、平成30年6月末までに同社広島工場内に賃借しているフロアから当社グループ他拠点への移転を進めております。想定を超えるプロジェクト遂行上の問題

が発生した場合は当社グループの事業展開、財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(3) その他

親会社グループとの関係について

平成 29年 6月 5日に公開買付けにより、力成科技股份有限公司が当社の親会社となりました。力成科技股份有限公司はグループ全体で当社株式の59.44%の議決権を所有しております。また、同社グループから非常勤取締役 4名、非常勤監査役 1名が派遣されております。現状において、当社グループは同社グループ内において競合となりうる状況は発生しておりません。しかしながら、力成科技股份有限公司による当社株式の株主権行使が、当社の他の株主の利益と一致しない可能性があります。

知的財産について

当社グループが特許等の知的財産権を取得しようとする場合に、適時に特許等の登録を受けられるとは限りませんし、あるいは第三者が保有する知的財産権についての実施許諾を適時に受けられ、かつ継続できるとは限りません。また、当社グループも第三者から知的財産権の侵害や、実施許諾等に関する違反を主張される可能性があります。その場合、当社グループの事業展開、財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

(1) 半導体テストサービスに関する契約

契約会社名	契約締結先	内容	契約締結日	契約期間
(株)テラプローブ	マイクロンメモリ ジャパン(株)	取引基本契約 (注) 1	平成17年10月1日	平成17年10月1日から平成18年9月30日まで以後1年ごとの自動更新
(株)テラプローブ	マイクロンメモリ ジャパン(株) Micron Technology, Inc.	包括契約 (注) 2	平成27年5月1日	平成27年5月1日から平成30年4月30日まで(注) 3

(注) 1. 当契約の内容は取引の一般的、基本的な事項を定めたものであります。

2. 当契約の概要は以下のとおりです。

当社とマイクロンメモリ ジャパン(株) (旧エルピーダメモリ(株)) 及びMicron Technology, Inc.は、マイクロンメモリ ジャパン(株)がFab15 (広島工場)において生産するウエハの実質全量のウエハテストについて、平成27年5月1日から3年間、当社が受託する旨定めております。

3. 当契約は、平成30年4月30日をもって期間満了により終了する見込みです。

(2) その他の契約

契約会社名	契約締結先	内容	契約締結日
(株)テラプローブ	Micron Technology, Inc. マイクロン ジャパン(株)	ASSET PURCHASE AGREEMENT(注) 1	平成29年4月14日
(株)テラプローブ	Micron Technology, Inc. マイクロン ジャパン(株)	OMNIBUS AMENDMENT AGREEMENT(注) 2	平成29年12月6日
(株)テラプローブ	マイクロンメモリ ジャパン(株)	建物賃貸借契約書の変更等に関する覚書(注) 3	平成29年12月6日

(注) 1. 当社は、平成29年4月14日開催の取締役会において、平成30年5月1日をもって、マイクロン ジャパン(株)に対して、マイクロンメモリ ジャパン(株)を顧客とする一部事業を譲渡することについて決議し、同日付けで当契約を締結しております。当契約において、譲渡した設備につき、一定の条件の場合において当社が優先的に買い戻すことができる権利を定めております。

2. 当契約の内容は、ASSET PURCHASE AGREEMENTにおいて定めた譲渡対象資産の変更、及び当社広島事業所の移転に伴い当社に損害が発生した場合の補償等について定めたものであります。

3. 当覚書の内容は、当社広島事業所の、マイクロンメモリ ジャパン(株)Fab15 (広島工場)からの移転の時期、及び移転に伴う補償金約923百万円の受け取り等について定めたものであります。

6【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動は、システムソリューションセンター (熊本県熊本市)において、画像処理技術を応用したソフトウェア開発や、生体信号を使用したヒューマンインターフェース技術の研究を行っております。

具体的には、顔認証技術に注目し、日本電気株式会社 (NEC) 製、顔検出 / 顔照合エンジン「NeoFace」(*1)のアルゴリズムを採用し、ARM Core (*2) 等に対応した製品開発を行い、世界で販売されている様々なマイクロコントローラ製品向けソフトウェアの開発を行っております。

また、脳波や心電等を用いて、ハンズフリーでのウェアラブル機器の操作や、医療、福祉用途の身体情報収集などが可能になる技術を研究しております。

以上の結果、当連結会計年度における研究開発費の金額は、19百万円となりました。

なお、当社グループのメモリ事業及びシステムLSI事業における研究開発活動は、受託業務に関連した開発内容が中心であり、これらの研究開発は事業活動に密接に関わる内容であるため、売上原価として処理しております。

(*1)「NeoFace」は、日本電気株式会社の登録商標です。

(*2)ARM は ARM Limited の登録商標または商標です。その他の製品名やサービス名は全てそれぞれの所有者に属する商標または登録商標です。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

なお、当社は決算期変更に伴い、当連結会計年度は9ヶ月間の変則決算となっております。このため、前年同期との比較は行っておりません。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づき作成されております。その作成には、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要とします。経営者は、これらの見積りについて過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

繰延税金資産

当社グループは、繰延税金資産の回収可能性を検討し、評価性引当金を設定することにより減額しております。評価性引当金の必要性を検討するに当たり、将来の課税所得を考慮しております。繰延税金資産の回収可能性の検討は毎期行っており、計上されている繰延税金資産の金額と回収見込み金額との差額は、法人税等調整額に計上され、親会社株主に帰属する当期純利益を増減させることとなります。

固定資産の減損

当社グループでは、「固定資産の減損に係る会計基準」を適用しており、前連結会計年度において帳簿価額の回収が困難と見込まれる固定資産につき減損処理を行っております。なお、前述以外の固定資産については、将来の収益計画に基づき減損処理の必要性を判断していますが、将来の収益獲得が見込めなくなった場合には、減損損失が発生する可能性があります。

退職給付債務

当社の従業員退職給付債務及び費用は、割引率等数理計算上で設定される前提条件や年金資産の期待運用収益率に基づいて算出しております。実際の結果が前提条件と相違した場合又は前提条件を変更した場合、その影響額は数理計算上の差異として認識し、退職給付に係る制度を変更した場合、その影響額は過去勤務費用として認識します。これら数理計算上の差異及び過去勤務費用のうち、当期に費用処理されない部分については、税効果を考慮の上その他の包括利益として認識し、退職給付に係る負債に含めて計上しております。よって、前提条件と実際の差異が生じたり、制度変更を行った場合、その他の包括利益、繰延税金資産及び退職給付に係る負債に影響を及ぼします。なお、当連結会計年度においては、第5 経理の状況 1.連結財務諸表等の注記事項（会計上の見積りの変更）に記載の通り、数理計算上の差異及び過去勤務費用の処理年数について、従来、従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（14年）で費用処理しておりましたが、平均残存勤務期間がこれを下回ったため、当連結会計年度より、費用処理年数を10年に変更しております。

貸倒引当金

当社グループは、債権の貸倒れによる損失に備えるため、破産更生債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、貸倒引当金を計上しております。なお、相手先の財政状態の悪化により支払能力が低下した場合、引当金の追加計上が必要になる場合があります。

(2) 経営成績の分析

(売上高)

当連結会計年度における売上高は、17,869百万円となりました。その主な要因は、車載用製品の需要が好調であったことや、株式会社テラプローブ会津を完全子会社化したことなどの影響によるものです。

(売上原価)

当連結会計年度における売上原価は、14,191百万円となりました。その主な要因は、株式会社テラプローブ会津を完全子会社化したことなどの影響によるものです。

(販売費及び一般管理費)

当連結会計年度における販売費及び一般管理費は、1,831百万円となりました。その主な要因は、株式会社テラプローブ会津を完全子会社化したことなどの影響によるものです。

(営業利益)

上記の諸要因により、当連結会計年度における営業利益は、1,845百万円となりました。

(営業外収益)

当連結会計年度における営業外収益は、155百万円となりました。その主な要因は、固定資産設備貸出による賃貸料の計上によるものです。

(営業外費用)

当連結会計年度における営業外費用は、210百万円となりました。その主な要因は、為替差損の計上によるものです。

(経常利益)

上記の諸要因により、当連結会計年度における経常利益は、1,790百万円となりました。

(特別利益)

当連結会計年度における特別利益は、73百万円となりました。その主な要因は、固定資産設備売却益によるものです。

(特別損失)

当連結会計年度における特別損失は、127百万円となりました。その主な要因は、広島事業移転に関する費用の計上によるものです。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

上記の諸要因により、当連結会計年度における親会社株主に帰属する当期純利益は、334百万円となりました。

(3) 財政状態に関する分析

(資産)

当連結会計年度末における総資産は54,329百万円となり、前連結会計年度末比8,012百万円の増加となりました。これは主に、有価証券が1,000百万円減少した一方で、主に台湾子会社において設備投資を実施したことにより有形固定資産が9,374百万円増加したことによるものです。

(負債)

負債は25,165百万円となり、前連結会計年度末比6,069百万円の増加となりました。これは主に、設備投資のために長期借入金が2,756百万円、短期借入金が2,128百万円、未払金が949百万円それぞれ増加したことによるものです。

(純資産)

純資産は29,164百万円となり、前連結会計年度末比1,942百万円の増加となりました。これは主に、非支配株主持分を1,387百万円、親会社株主に帰属する当期純利益を334百万円それぞれ計上したことによるものです。

(4) キャッシュ・フローの状況に関する分析

当連結会計年度末の現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は8,910百万円となり、前連結会計年度末比632百万円の減少となりました。

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、6,870百万円の純収入となりました。これは主に、減価償却費の計上5,338百万円及び税金等調整前当期純利益の計上1,735百万円により資金が増加したことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、12,065百万円の純支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出12,751百万円により資金が減少したことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、4,503百万円の純収入となりました。これは主に、設備投資資金の調達で借入金による収入が長短合わせて19,293百万円あったことにより資金が増加した一方、借入金の返済による支出が長短合わせて14,744百万円あったことにより資金が減少したことによるものです。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは、半導体のテスト受託を主な事業としており、この事業は受託量の増加や受託対象製品の増加に際して、使用する測定装置等の投資が先行し、数年にわたって回収していく構造となっております。従って、所要資金の調達については、長期借入金やファイナンスリース等の長期安定的な調達方法を取ることに留意しております。この結果、キャッシュ・フローに関し、営業活動によるキャッシュ・フローにおいては減価償却費が、投資活動によるキャッシュ・フローについては新規設備投資による支出が、財務活動によるキャッシュ・フローにおいては長期借入金等の長期有利子負債の増減が、それぞれ主な構成要素及び変動要因となっております。

手許流動性、すなわち、現金及び現金同等物の水準については、業績の変動に対応するため、連結売上高の3ヶ月分以上の確保が望ましいと考えております。当連結会計年度末においては、現金及び現金同等物の残高は8,910百万円であり、当連結会計年度売上高の約4.5ヶ月分を確保しております。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループの売上高は、半導体のテスト受託を中心としており、顧客の生産動向により経営成績が影響を受ける可能性があります。

特に、当社グループの主要顧客であるマイクロンメモリ ジャパン株式会社が、当社が保有する半導体検査装置によってテストを行う製品から、MTIグループ製の半導体検査装置によってテストを行う製品にシフトを進めており、これが当社業績に影響を与える可能性があります。なお、当社は同社向け事業を平成30年5月1日に譲渡し、当社の経営資源を成長事業に振り向ける予定です。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

半導体製品は、情報通信・自動車など、現代の社会において無くてはならないものとなり、今後もより一層の市場拡大が期待されております。一方、この成長市場におけるグローバルな企業間の競争はこれまで以上に激しくなっております。また、近年の半導体市場を牽引してきたスマートフォンの成長には陰りが出てきております。

このように機会と脅威が交錯する環境のなか、当社グループは、昨年6月より世界有数のOSAT企業であるPTIグループの一員となり、グローバルに飛躍し続ける企業への変革を目指し、引続き事業の拡大を図ってまいります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、テスト受託能力増強及び新規テスト受託に伴うテスト装置導入のために設備投資を実施し、当連結会計年度の設備投資の総額は13,895,717千円(無形固定資産及び調整額等を含む)となりました。

なお、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(1) メモリ事業

メモリ事業の設備投資額は、2,816,658千円であります。これらは主に、新たに受託したテスト業務及びテスト負荷の高い製品の増加に対応するための設備の取得であります。

(2) システムLSI事業

システムLSI事業の設備投資額は、8,291,976千円であります。これらは主に、新たに受託したテスト業務のための設備の取得であります。

当連結会計年度において、稼働の低下した生産設備の売却を行っており、売却額はメモリ事業において2,028千円、システムLSI事業において108,905千円であります。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

平成29年12月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物 (千円)	機械及び 装置 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
本社・開発センター (神奈川県横浜市港北区)	全事業	本社・ 事務所	16,678	-	-	8,091	24,770	71 (5)
広島事業所 (広島県東広島市)	メモリ事業	半導体 検査設備他	146,503	1,027,371	-	464,669	1,638,544	98 (27)
九州事業所 (熊本県葦北郡芦北町)	メモリ事業 システム LSI事業	半導体 検査設備他	1,389,019	3,687,890	64,948 (58,660)	1,165,105	6,306,964	103 (46)
システムソリューション センター (熊本県熊本市)	全事業	事務所	6,915	-	-	2,401	9,317	19

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、構築物、工具、器具及び備品、建設仮勘定の合計であります。なお上記金額には消費税等を含めておりません。
2. 帳簿価額は「固定資産の減損に係る会計基準」及び「固定資産の減損に係る会計基準の適用指針」の適用後の金額を表示しております。
3. 本社・開発センター、広島事業所、及びシステムソリューションセンターは土地及び建物を賃借しており、年間の賃借料は218,644千円であります。
4. 従業員数の()は、当連結会計年度末までの1年間の臨時雇用者数の平均を外書しております。

(2) 国内子会社

平成29年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				建物 (千円)	機械及び 装置 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
株式会社 テラプロープ 会津	本社・工場 (福島県 会津若松市)	システム LSI事業	半導体 検査設備他	154,364	121,118	-	63,333	338,816	84 (78)

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品、建設仮勘定の合計であります。なお上記金額には消費税等を含めておりません。
2. 従業員数の()は、当連結会計年度末までの1年間の臨時雇用者数の平均を外書しております。
3. 本社・工場は土地及び建物を賃借しており、年間の賃借料は74,285千円あります。

(3) 在外子会社

平成29年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				建物 (千円)	機械及び 装置 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
TeraPower Technology Inc.	本社・工場 (台湾新竹縣)	メモリ事業 システム LSI事業	半導体 検査設備他	2,805,779	13,809,338	1,574,673 (12,756)	8,403,178	26,592,970	460 (130)

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具、工具、器具及び備品、建設仮勘定の合計であります。なお上記金額には消費税等を含めておりません。
2. 従業員数の()は、当連結会計年度末までの1年間の臨時雇用者数の平均を外書しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

当社グループは、新規テスト受託に伴うテスト装置導入及びテスト受託能力の強化を目的として、継続的に設備投資を行っております。当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修計画等は次のとおりであります。

社名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		着手及び 完了予定年月		完成後の 増加能力	資金調達 方法
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)	着手	完了		
(株)テラプロープ	熊本県 葦北郡 芦北町	システム LSI事業	クリーンルー ム建築工事	1,200	0	平成30年 1月	平成30年 5月	-	自己資金 及び借入金
Terapower Technology Inc.	台湾 新竹縣	メモリ事業 システム LSI事業	クリーンルー ム建築工事	2,000	0	平成30年 2月	平成30年 12月	-	自己資金 及び借入金

(注) 完成後の増加能力につきましては、合理的な算出が困難なため、記載を省略しております。

(2) 重要な設備の除却等

当社は、平成29年4月14日開催の取締役会において、平成30年5月1日をもって、マイクロンジャパン株式会社に対して、マイクロンメモリジャパン株式会社(旧エルピーダメモリ株式会社)を顧客とする一部事業を譲渡することについて決議いたしました。詳細につきましては、「第2 事業の状況 5.経営上の重要な契約等 (2)その他の契約」をご参照ください。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成30年3月29日)	上場金融商品取引 所名又は登録 認可金融商品取 引業協会名	内容
普通株式	9,282,500	9,282,500	東京証券取引所 (マザーズ)	完全議決権株式であり、権利内容 に何ら制限の無い当社の標準となる 株式で、単元株式数は100株であ ります。
計	9,282,500	9,282,500	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済普通株 式総数増減数 (株)	発行済普通株 式総数残高 (株)	発行済A種類 株式総数 増減数(株)	発行済A種類 株式総数 残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
平成22年4月1 日～平成23年3月 31日(注)	2,500	9,282,500	-	-	3,312	11,823,312	3,312	11,380,267

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(6)【所有者別状況】

平成29年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							計	単元未満 株式の状 況(株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)		3	29	35	23	9	3,790	3,889	-
所有株式数 (単元)	-	2,203	6,902	45,070	13,159	69	25,406	92,809	1,600
所有株式数 の割合(%)	-	2.37	7.43	48.56	14.17	0.07	27.37	100.00	-

(注) 自己株式145株は「個人その他」に1単元、「単元未満株式の状況」に45株含まれております。

(7)【大株主の状況】

平成29年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
力成科技日本合同会社	東京都千代田区大手町1丁目1番2号 大手門タワー 西村あさひ法律事務所 内	4,440,300	47.83
POWERTECH TECHNOLOGY INC. (常任代理人 藤本 欣伸)	10 DATONG RD., HSINCHU INDUSTRIAL PARK, HUKOU, HSINCHU 30352, TAIWAN (東京都千代田区大手町1丁目1 - 2 大手門タワー 西村あさひ法律事 務所)	1,077,100	11.60
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	193,300	2.08
神林 忠弘	新潟県新潟市中央区	120,100	1.29
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町1丁目5番1号	119,100	1.28
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	東京都中央区晴海1丁目8 - 12 晴海アイランドトリトンスクエアオ フィスタワーZ棟	100,000	1.07
マネックス証券株式会社	東京都港区赤坂1丁目12 - 32	87,700	0.94
岩井 雷太	大阪府枚方市	84,300	0.90
日色 隆善	東京都文京区	84,300	0.90
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町1丁目4番地	78,400	0.84
計	-	6,384,600	68.78

- (注) 1. 持株比率は小数点第3位を切り捨てて表示しております。
2. Powertech Technology Inc.の完全子会社である力成科技日本合同会社は、公開買付により当社の普通株式を取得し、新たに当社の主要株主となりました。なお、前事業年度末現在主要株主であったマイクロンメモリ ジャパン株式会社は、主要株主ではなくなりました。
3. 前事業年度末において主要株主であった株式会社アドバンテストは、当事業年度末現在では主要株主ではなくなりました。

(8)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,280,800	92,808	権利内容に何ら制限の無い 当社の標準となる株式であり ます。
単元未満株式	普通株式 1,600	-	-
発行済株式総数	9,282,500	-	-
総株主の議決権	-	92,808	-

(注)「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式が次のとおり含まれております。
自己株式 45株

【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社テラプロープ	神奈川県横浜市港北区 新横浜2-7-17	100	-	100	0.00
計	-	100	-	100	0.00

(9)【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額	株式数 (株)	処分価額の総額
引き受けるものの募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	145	-	145	-

(注) 当期間における保有自己株式には、平成30年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要課題と位置づけており、その方針としては、企業価値の向上に必要な設備投資や研究開発、財務体質の健全性を実現しつつ、収益状況に応じた利益還元を行うことを基本方針としております。

平成29年12月期においては親会社株主に帰属する当期純利益を計上しているものの、積極的な設備投資を行ったことから平成29年12月期末時点では有利子負債が前期比で大幅に増加しており、利益剰余金も未だ欠損となっております。大変遺憾ではありますが、還元するべき利益の蓄積がないことから、配当等の利益還元は見送らせていただきます。将来的に配当可能な状態になった場合の利益還元については、各事業年度の財政状態、経営成績及び将来に向けた事業計画等を勘案しながら、その方法、比率等を検討していく予定であります。

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第8期	第9期	第10期	第11期	第12期	第13期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成29年12月
最高(円)	1,180	1,848	1,432	1,679	1,630	1,589
最低(円)	491	770	934	618	618	1,107

(注) 1. 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおけるものであります。

2. 決算期変更により、第13期は平成29年4月1日から平成29年12月31日までの9ヶ月間となっております。

(2)【最近6ヶ月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	1,431	1,337	1,387	1,524	1,515	1,281
最低(円)	1,126	1,165	1,134	1,292	1,168	1,183

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおけるものであります。

5【役員の状況】

男性11名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 会長	-	浦崎 直彦	昭和24年 11月21日生	昭和43年4月 ㈱東芝 入社 平成4年4月 ㈱東芝 技術部 システム技術部 部長 平成5年4月 Toshiba Electronics Malaysia Sdn. Bhd. Director 平成11年4月 岩手東芝エレクトロニクス㈱ 製造部長 平成11年10月 杵築東芝エレクトロニクス㈱ 代表取締 役社長 平成12年10月 アムコー岩手㈱ 代表取締役社長 平成14年7月 アムコー・テクノロジー・ジャパン㈱ 代表取締役社長 平成21年10月 ㈱ジェイデバイス 取締役副社長 平成28年10月 ㈱ジェイデバイス 最高顧問 平成30年3月 力成科技日本合同会社 社長(現任) パワーテックテクノロジー秋田㈱ 取締 役(現任) 当社 代表取締役会長(現任)	(注)5	-
代表取締役 社長	執行役員 (注)3	渡辺 雄一郎	昭和43年 12月19日生	平成4年4月 日本電気㈱ 入社 平成16年10月 エルピーダメモリ㈱(現社名マイクロ ンメモリ ジャパン㈱) 転籍 平成18年10月 同社 F&A Office コーポレートバジェッ トGr エグゼクティブマネージャー 平成19年5月 同社 F&A Office ファイナンスGr エグ ゼクティブマネージャー 平成21年2月 EBS㈱ 監査役 ECM㈱ 監査役 平成21年8月 エルピーダメモリ㈱(現社名マイクロ ンメモリ ジャパン㈱) F&A Office コーポレートバジェットGr エグゼクティブマネージャー 平成22年6月 当社 入社 当社 取締役兼執行役員 システムLSI事 業部総括兼セールスオフィス総括 TeraPower Technology Inc. 取締役 平成23年6月 当社 代表取締役社長兼執行役員CEO 平成24年6月 ㈱テラミクロス 代表取締役社長 平成26年2月 当社 代表取締役社長兼執行役員CEO 先行技術開発室長 平成26年9月 当社 代表取締役社長兼執行役員CEO (現任) 平成29年6月 TeraPower Technology Inc. Chairman (現任)	(注)5	5,800
取締役副社長	執行役員COO (注)3	横山 毅	昭和41年 11月19日生	昭和60年4月 山口日本電気㈱ 入社 平成12年7月 広島日本電気㈱ 転籍 平成15年9月 広島エルピーダメモリ㈱ 出向 平成16年4月 同社 転籍 平成17年6月 同社 ウエハー測定部長 兼ウエハー測定技術部長 平成17年9月 当社 出向 取締役 平成19年4月 当社 取締役兼執行役員CPO 平成19年6月 当社 転籍 平成22年2月 当社 取締役兼執行役員 メモリ事業部長 平成22年3月 TeraPower Technology Inc. Director 平成23年6月 当社 取締役兼執行役員 メモリビジネスユニット長 平成23年10月 ㈱テラミクロス 取締役 平成24年6月 当社 取締役兼執行役員COO メモリビジネスユニット長 平成26年5月 当社 取締役、執行役員COO兼メモリビジ ネスユニット長兼CSO&CMO 平成26年6月 当社 取締役兼執行役員COO メモリビジネスユニット長 平成27年7月 当社 取締役兼執行役員COO 平成28年6月 当社 取締役副社長兼執行役員COO (現任) 平成28年10月 当社 テストオペレーションビジネス ユニット長(現任)	(注)5	500

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 (非常勤)	-	蔡篤恭	昭和25年 11月30日生	平成11年1月 Powertech Technology Inc. CEO & Chairman (現任) 平成17年9月 当社 取締役 平成21年8月 Powertech Holding (B.V.I.) Inc. Director (現任) 平成21年9月 PTL Technology (Singapore) Pte. Ltd. Director (現任) Powertech Technology (Suzhou) Ltd. Director (現任) 平成24年4月 Greatek Electronics Inc. Chairman (現任) 平成26年7月 Powertech Technology (Singapore) Pte. Ltd. Director (現任) 平成29年1月 力成科技日本合同会社 職務執行者 (現任) 平成29年6月 当社 取締役 (現任)	(注) 6	-
取締役 (非常勤)	-	岩間 耕二	昭和26年 7月28日生	平成18年6月 ㈱東芝 執行役常務 東芝セミコンダクター社 副社長兼営業 統括責任者 電子デバイス営業事業部事 業部長 平成22年4月 ㈱東芝 執行役常務兼欧州総代表 東芝ヨーロッパ社 社長 平成24年6月 同社 顧問 平成25年8月 Powertech Technology Inc. 顧問 (現任) 平成29年6月 当社 取締役 (現任)	(注) 6	-
取締役 (非常勤)	-	李躬富	昭和28年 4月18日生	昭和59年4月 Toshiba Microelectronics America Corp. Assembly Package Engineering Manager 平成11年6月 Kingston Technology Corp. Sales Director 平成17年8月 Powertech Technology Inc. Sales Strategy Vice President (現任) 平成29年6月 当社 取締役 (現任)	(注) 6	-
取締役 (非常勤)	-	曾炫章	昭和35年 1月2日生	平成20年7月 Tsai Lin Pu Social Welfare Foundation Director (現任) 平成26年3月 Powertech Technology (Singapore) Pte. Ltd. Director (現任) 平成27年5月 Powertech Technology Inc. CFO & Vice President (現任) 平成27年8月 Powertech Semiconductor (Xi'an) Co. Ltd. Director (現任) 平成27年11月 Powertech Technology (Suzhou) Ltd. Supervisor (現任) 平成28年3月 Powertech Technology Inc. Director (現任) 平成29年5月 TeraPower Technology Inc. Director (現任) 平成29年6月 当社 取締役 (現任) 平成29年8月 パワーテックテクノロジー秋田㈱ 取締 役 (現任)	(注) 6	-
取締役 (非常勤)	-	森 直樹	昭和46年 6月28日生	平成13年10月 弁護士登録 光和総合法律事務所 入所 平成17年10月 同事務所 パートナー 平成18年3月 LM法律事務所 パートナー (現任) 平成21年10月 ㈱企業再生支援機構プロフェッショナ ル・オフィス ディレクター 平成23年8月 コロナ工業㈱ 監査役 平成24年6月 当社 監査役 平成25年6月 当社 取締役 平成27年6月 当社 取締役 (現任) 一般社団法人中小企業再生型事業承継支 援機構 理事 (現任)	(注) 6	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
監査役 (常勤)	-	増子 尚之	昭和35年 7月13日生	昭和59年4月 ㈱日立製作所 入社 平成10年7月 同社 半導体事業本部経理部 会計第二課 課長 平成12年6月 Hitachi Semiconductor(Malaysia) Sdn. Bhd. 経理部 副部長 平成14年12月 エルピーダメモリ㈱(現社名マイクロンメ モリ ジャパン㈱)経理部マネージャー 平成17年4月 広島エルピーダメモリ㈱ 経理部 部長 平成19年5月 Rexchip Electronics Corporation(現社 名Micron Memory Taiwan Co., Ltd) Director CFO 平成22年6月 同社 CFO 平成23年6月 エルピーダメモリ㈱(現社名マイクロン メモリ ジャパン㈱) 常勤監査役 秋田エルピーダメモリ㈱(現社名パワー テックテクノロジー秋田㈱) 監査役 Elpida Memory (Taiwan) Co., Ltd. Supervisor 平成24年7月 当社 常勤監査役(現任) ㈱テラミクロス 監査役 平成25年6月 TeraPower Technology Inc. Supervisor(現任) 平成29年2月 ㈱テラプローブ会津 監査役(現任)	(注)7	-
監査役 (非常勤)	-	林宥翰	昭和44年 1月10日生	平成13年6月 Law Office of Suzan Yee & Associates Attorney-at-Law 平成19年10月 PricewaterhouseCoopers Legal (Taiwan) Senior Director, Attorney-at-Law 平成23年2月 Powertech Technology Inc. Human Resources & Legal Affairs Senior Director(現任) 平成27年5月 Powertech Semiconductor (Xi'an) Co. Ltd. Auditor(現任) 平成29年5月 PTI Education Foundation Director (現任) 平成29年8月 パワーテックテクノロジー秋田㈱ 監査 役(現任) 平成30年3月 当社 監査役(現任)	(注)7	-
監査役 (非常勤)	-	打越 佑介	昭和52年 9月10日生	平成15年4月 横河電機㈱ 入社 平成19年6月 サクラ国際特許事務所友野オフィス入所 平成21年12月 下坂・松田国際特許事務所 入所 平成22年4月 弁理士登録 平成25年4月 日本弁理士会特許第2委員会 副委員長 平成26年6月 当社 監査役(現任) 平成26年7月 下坂・松田国際特許事務所 副所長(現 任)	(注)7	-
計						6,300

- (注) 1. 取締役 森 直樹は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役 増子 尚之及び打越 佑介は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 当社は、執行役員制度を導入しております。執行役員は以下の7名です。
渡辺 雄一郎.....執行役員社長...グループ統括、内部監査・システムソリューションセンター担当
横山 毅.....執行役員COO (Chief Operating Officer) ...オペレーション執行統括、クオリティアシュアランス・テストオ
ペレーションビジネス担当
池内 貴之.....執行役員...テストディベロップメントビジネス担当
池田 実成.....執行役員...ターンキービジネス推進担当
原田 啓明.....執行役員...会津オペレーション担当
神戸 一仁.....執行役員CFO (Chief Financial Officer) ...ファイナンス&アカウンティング担当
地主 尚和.....執行役員CAO (Chief Administrative Officer)...アドミニストレイティブ・ビジネスディベロップメント担当
4. 当社は法令に定める監査役員の数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しておりま
す。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (株)
清水 宏樹	昭和48年8月19日生	平成10年10月 太田昭和監査法人(現新日本有限責任監査法人) 入所 平成14年6月 公認会計士登録 平成26年8月 同監査法人 退所 平成26年9月 ㈱コメダ 監査役 平成26年11月 ㈱コメダホールディングス 監査役 平成28年4月 同社 監査等委員である取締役 平成29年5月 同社 管理本部副本部長(現任) ㈱コメダ 取締役(現任)	-

5. 平成30年3月29日開催の定時株主総会で選任されており、その任期は選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。
6. 平成29年6月29日開催の定時株主総会で選任されており、その任期は選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。
7. 平成30年3月29日開催の定時株主総会で選任されており、その任期は選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

基本的な考え方

当社は、コーポレート・ガバナンスを経営上の重要な課題と位置づけております。その基本的な考え方は、経済・社会の構造的変化や急速に進展する半導体市場といった、当社を取り巻く経営環境の変化に迅速に対応できる業務執行体制を確立し、適切な管理・監督体制を構築することで、経営の効率化及び透明性の向上を図ることです。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

イ．会社の機関の基本説明

・取締役会

当社の取締役会は、取締役8名（内1名が社外取締役）で構成されております。取締役会は、原則として3ヶ月に1回開催しており、また迅速な意思決定を確保するために、必要に応じて適宜臨時取締役会を開催しております。取締役会は、当社の経営に関する重要事項について意思決定するとともに、取締役の職務の執行及び執行役員による業務執行を監督しております。

・監査役会

当社は、監査役会制度を採用しております。監査役会は、常勤監査役1名及び非常勤監査役2名の計3名（内2名が社外監査役）で構成されており、3ヶ月に1回の監査役会のほか、必要に応じて随時臨時監査役会を開催しております。監査役会においては、経営の妥当性、コンプライアンスなどに関して幅広く意見交換や検証を行い、適宜取締役の意思決定に関して善管注意義務、忠実義務等の法的義務の履行状況を監視、検証しております。

また、監査役は取締役会へ出席するほか、常勤監査役は必要に応じて他の社内の重要会議へも出席しており、全社の状況を把握しながら経営に対する監視機能を発揮できる体制となっております。

・執行役員会

当社は、半導体業界の素早い動向変化に対応するため、業務執行に関する重要事項を協議・決定する機関として執行役員会を設置しております。執行役員会は、7名の執行役員で構成されており、原則として毎週1回開催しております。執行役員会は、取締役会が決定した基本方針に基づいて、一定範囲内の重要案件を決定するとともに、業務運営上重要な情報の共有を行っております。これにより、技術的、事業環境的な変化に迅速に対応し、適切な決定を適時行える経営体制を整えております。

・役員報酬諮問委員会

当社は、役員報酬の公正性・妥当性を確保するために役員報酬諮問委員会を設置しております。役員報酬諮問委員会は、代表取締役を除く取締役・監査役・執行役員及び顧問弁護士の中から選任される、監査役1名以上を含む3名以上の委員で構成され、取締役及び執行役員の報酬について答申を行っております。

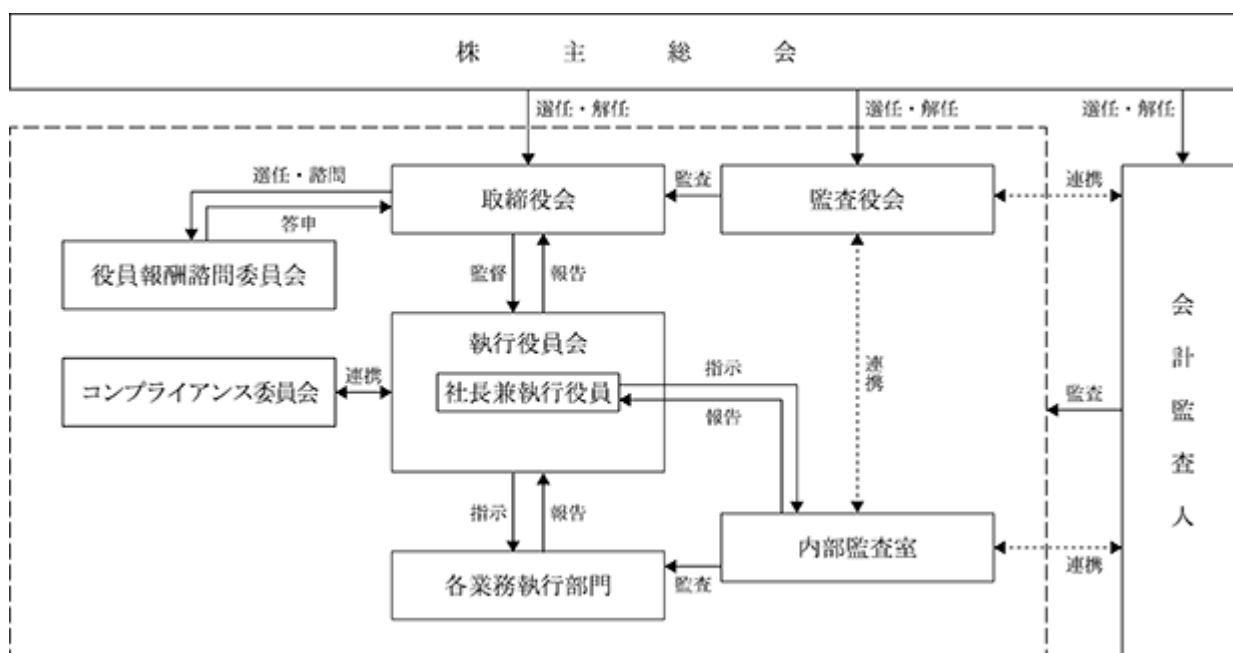
・コンプライアンス委員会

当社は、当社グループ全体へのコンプライアンスの徹底を図ることを目的として、コンプライアンス委員会を設置しております。コンプライアンス委員会は、原則として四半期ごとに、また必要に応じて随時開催し、グループ全体のコンプライアンス推進の基本的な方針決定等の審議を行っております。

・内部監査室

当社は、適切な業務の執行を検証するため、業務部門から独立した社長直属の内部監査室を設置しております。内部監査室は、専任者2名で構成され、業務執行部門の監査を行い、その結果を社長に直接報告しております。

ロ．会社の機関・内部統制システム(図表)



ハ．内部統制システムの整備の状況

当社は、取締役会において「株式会社の業務の適正を確保する体制の整備に関する基本方針」を決議し、その内容に沿って当社及び子会社（以下「当社グループ」といいます。）の内部統制システムの整備を行っております。「株式会社の業務の適正を確保する体制の整備に関する基本方針」及び当該体制の運用状況は次のとおりであります。

- a. 当社グループの取締役等及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - ・企業活動全般において遵守する必要がある指針と基準を明確化したCode of Conductを当社にて作成し、その内容を当社及び当社子会社（以下「当社グループ」という。）の取締役等及び使用人に周知徹底させるとともに、その遵守を義務付ける。
 - ・コンプライアンス担当取締役を委員長とするコンプライアンス委員会を当社に設置し、当社グループのコンプライアンス体制を整備するとともに、当社グループ全体へのコンプライアンスの徹底を図る。
 - ・当社グループの取締役等及び使用人が利用可能な内部通報制度（コンプライアンス・ヘルプライン）を設置し、当社グループに本制度を周知徹底し、法令上疑義のある行為等についての情報の確保に努める。
 - ・取締役等及び使用人におけるコンプライアンス意識の向上を図るため、当社グループの取締役等及び使用人を対象としたコンプライアンス教育を実施する。
 - ・反社会的勢力と一切の関係をもたず、反社会的勢力からの不当な要求に対しては毅然とした態度で拒絶する。

（運用状況）

- ・イントラネットへの掲示、要約印刷物の配布等の方法で、Code of Conductの当社グループの取締役等及び使用人への周知徹底を図っております。
- ・コンプライアンス担当取締役、執行役員、常勤監査役及び内部監査室長から構成されるコンプライアンス委員会を四半期毎に開催し、当社グループのコンプライアンスに係る重要事項について審議・報告しております。
- ・当社グループ各社の取締役等及び使用人を対象にコンプライアンス研修を実施しております。
- ・コンプライアンス・ヘルプライン制度の内容を見直し、受付窓口・利用者・利用方法等の拡充を行い、コンプライアンス研修やイントラネットへの掲示等を通じて、当社グループの取締役等及び使用人に対して周知しております。
- ・反社会的勢力と一切の関係を持たず、いかなる要求も毅然とした態度で拒絶することをCode of Conductに定め、また神奈川県企業防衛対策協議会への参加等により、反社会的勢力に関する情報収集を図っております。

b. 当社取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ・取締役の職務の執行の適正に対する事後的なチェックを可能にすることを目的として、取締役会議事録等の取締役の職務執行に係る文書を社内規則に則り保存及び管理する。

(運用状況)

- ・法令及び社内規則に則り、取締役会議事録の他、執行役員会議事録等の文書を適切に保存・管理しております。

c. 当社グループの損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ・当社グループの企業経営及び事業環境に重大な影響を及ぼすリスクを確実に認識した上で、十分な事前検討と社内規程による牽制に基づき、適切な対策を実行する。
- ・当社グループの損失危機の管理に関する規程、体制整備及び対応方法の検討については、コンプライアンス委員会を通じて継続して推進する。
- ・大規模災害等、不測の事態や危機の発生時に当社グループの事業の継続を図るため、事業継続計画に関する社内規則を制定し、被害の拡大を最小限にとどめる体制を構築する。

(運用状況)

- ・コンプライアンス委員会において、当社のリスクマネジメント体制に関する報告・検討を行っております。
- ・当社グループ各社において事業継続に関する社内規則を制定し、イントラネットに掲示する等周知徹底を図っております。また、大規模災害等の発生時における適切な初動対応を確認するため、BCP訓練を各事業所において実施しております。

d. 当社グループの取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ・当社取締役会は、当社グループの経営の執行方針、法令で定められた事項やその他経営に関する重要事項を決定し、当社グループの業務執行状況を監督する。
- ・執行役員によって構成される執行役員会を当社において定期的を開催し、業務執行に関する個別経営課題を実務的な観点から協議し、執行役員の合議により決定、遂行する。
- ・取締役、執行役員及びその他使用人の職務分掌と権限を社内規則で明確にし、適正かつ効率的に職務が行われる体制を確保する。
- ・当社グループの中期経営計画及び年次予算の策定を行い、当該計画又は予算を目標として業績の管理を行う。

(運用状況)

- ・当事業年度においては取締役会を12回、執行役員会を38回開催し、取締役会規則・決裁基準等の社内規則に定める基準に基づき、当社グループの経営に関する重要事項について審議・決定するとともに、予算の達成状況等、業績について報告しております。

e. 子会社の取締役等の職務執行状況の報告その他の当社グループにおける業務の適正を確保するための体制

- ・当社において、子会社の経営内容を的確に把握するため、当社が定める関係規則において基準を定め、業績、その他重要な情報について定期的に報告を受ける。
- ・当社グループの各組織の業務が適正に行われているか否かを効果的にモニタリングするために当社に内部監査室を設置し、当社グループの内部監査を実施する。

(運用状況)

- ・当社取締役会及び執行役員会において子会社の業績等の重要な情報を報告するとともに、決裁基準及び関係会社管理規則等の定めに従い、子会社における一定の重要な意思決定について、当社取締役会及び執行役員会において事前にこれを審議・承認しております。
- ・内部監査室にて子会社に対する監査を実施し、その業務が適正に行われていることを確認しております。

- f. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項並びに当該使用人の取締役からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
- ・代表取締役は、監査役からの依頼があった場合、執行役員をもって、監査役と協議の上、必要に応じ監査役の職務を補助すべき使用人を指名させる。なお、この場合、補助すべき期間を設定することができる。
 - ・上記使用人の人事異動、人事評価、及び懲戒処分にあたっては、監査役と事前に協議を行う。
 - ・上記使用人は、監査役の補助に関する職務を行う際には、監査役の指示に従うものとし、取締役等からの指示を受けない。

(運用状況)

- ・監査役の職務を補助すべき使用人を指名し、監査役の求めに応じ、当該使用人が監査役の指示に基づき職務を行う体制を整えております。

- g. 当社グループの取締役等、監査役及び使用人が当社監査役に報告をするための体制、並びに報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
- ・当社グループの取締役等、監査役及び使用人は、当社監査役会で定めた年度の監査方針・監査計画に基づき実施される監査役監査に対応する。
 - ・当社グループの取締役等及び使用人は、当社監査役から要求があり次第、自らの業務執行状況を報告する。
 - ・当社グループの代表取締役と当社監査役は、相互の意思疎通を図るため、定期的に主要事項に関して協議を行う。
 - ・内部通報窓口（コンプライアンス・ヘルプライン）への通報状況とその処理状況は、定期的に当社監査役に報告する。
 - ・当社監査役へこれらの報告を行った当社グループの取締役等、監査役及び使用人に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を当社グループの取締役等、監査役及び使用人に周知徹底する。

(運用状況)

- ・当社監査役から業務執行状況に関する報告の要求を受けた当社グループの取締役等及び使用人は、適時適切に報告を行っております。
- ・コンプライアンス・ヘルプライン規則に基づき社外取締役、常勤監査役及び内部監査室長を内部通報窓口の通報先とするとともに、その通報・処理状況についてコンプライアンス委員会及び監査役会において報告しております。また、当社監査役は、子会社のコンプライアンス・ヘルプライン通報状況及び処理状況について定期的に報告を受けております。
- ・当社グループ各社のコンプライアンス・ヘルプライン規則等において、通報者に対し通報を理由とした不利益な取扱いを行わないことを定め、これを周知徹底しております。

h. 監査役の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

- ・ 当社は、監査役よりその職務の執行について、費用の前払い等の請求があった場合、当該請求に係る費用又は債務が当該監査役の職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理する。

(運用状況)

- ・ 監査役の職務執行に必要と認められる費用・債務等については、監査役からの請求に基づき、速やかに処理しております。

i. 監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ・ 監査役は、取締役及び使用人の業務執行状況を適時適切に把握できるよう、取締役会、執行役員会等の重要会議に出席する権限を有する。
- ・ 監査役は、取締役及び使用人に対し、監査に必要な資料の提出並びに説明を求め、また全ての電子ファイルにアクセスする権限を有する。
- ・ 内部監査室は、当社グループに対する内部監査の実施状況、結果について取締役会への報告に加え、監査役会に対し報告を行う。

(運用状況)

- ・ 監査役は、取締役会、執行役員会その他の重要会議に出席し、必要に応じて議案の内容につき説明・報告を求めており、また内部監査室と連携して、取締役及び使用人の業務執行の状況について定期的に監査を実施しております。
- ・ 当社は、当社ネットワーク上の全ての電子ファイルにアクセス可能な権限を常勤監査役に付与しております。
- ・ 内部監査室は、当社グループの内部監査の結果を取締役会及び監査役会において報告しております。

j. 財務報告の信頼性を確保するための体制

- ・ 財務報告の信頼性を確保するため、金融商品取引法その他の関係法令に基づき有効かつ適切な内部統制の整備及び運用体制を構築するとともに、かかる体制が適正に機能していることを継続的に評価し、必要に応じて是正措置を行う。

(運用状況)

- ・ 内部監査室が、金融商品取引法その他の関係法令に基づき、財務報告に係る内部統制の整備・運用評価を行っております。

二．内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部監査室は年間計画に基づいて業務執行部門の監査を行い、必要に応じて対象部門に対し問題点の指摘、改善の指導、助言などを行っております。また、過去の監査結果に対する改善状況の確認も行っております。さらに、会社の内部統制の整備、運用状況を日常的に監視するとともに、問題点の把握、指摘、改善勧告を行っております。内部監査の結果は、直接社長に報告書が提出されるとともに、監査役会でも報告が行われております。

また当社の監査役は、監査役会で策定された監査方針及び監査計画に基づき、取締役会をはじめとする重要な会議へ出席するとともに、業務執行及び財産の状況の調査を通して、取締役の職務執行を検証、監視しております。

内部監査室、監査役及び会計監査人は定期的に打合せを行い、監査状況などについて情報交換を行うなど連携を図っております。

なお、社外監査役増子尚之氏は、長年にわたる財務及び経理業務の経験を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

ホ．会計監査の状況

会計監査につきましては、当社は新日本有限責任監査法人と監査契約を結び、会社法に基づく監査及び金融商品取引法に基づく監査を受けております。なお、当連結会計年度において会計監査業務を執行した公認会計士は新日本有限責任監査法人に所属する公認会計士井村順子氏及び安藤隆之氏であります。また、会計監査業務に係る補助者は公認会計士13名、その他20名により構成されております。

同監査法人は、既に自主的に業務執行社員について、当社の会計監査に一定期間を超えて関与することのないよう措置をとっております。

ヘ．社外取締役及び社外監査役との関係

当社の取締役8名のうち1名は社外取締役であります。また、監査役3名のうち2名は社外監査役であります。

当社における社外取締役及び各社外監査役の人的関係、取引関係及びその他の利害関係並びに企業統治において果たすと考えている機能及び役割は、以下のとおりであります。

- ・社外取締役森直樹氏は、弁護士としての経験により企業法務に関する豊富な経験を有しており、業務の適正性・健全性を確保する役割を担うものと考えております。当社は、同氏を株式会社東京証券取引所の定める独立役員として届け出ております。なお、同氏はLM法律事務所のパートナー弁護士及び一般社団法人中小企業再生型事業承継支援機構の理事であります。
- ・社外監査役増子尚之氏は、半導体事業に関する豊富な経験を有しており、また、長年にわたる財務及び経理業務の経験を有しておりますので、業務の適正性・健全性を確保するという視点から監査を実施する役割を十分に果たし得るものと考えております。なお、同氏はTeraPower Technology Inc. の Supervisor 及び株式会社テラプローブ会津の監査役であります。また、同氏はエルピーダメモリ株式会社（現社名マイクロンメモリ ジャパン株式会社）及び Rexchip Electronics Corporation（現社名Micron Memory Taiwan Co., Ltd.）の職務を歴任しております。
- ・社外監査役打越佑介氏は、弁理士としての経験により企業の知的財産権に関する豊富な経験を有しており、業務の適正性・健全性を確保するという観点から監査を実施する役割を十分に果たし得るものと考えております。当社は、同氏を株式会社東京証券取引所の定める独立役員として届け出ております。なお、同氏は下坂・松田国際特許事務所の副所長であります。
- ・各社外役員が兼務している又は兼務していた会社と当社との取引関係は、以下のとおりであります。
 - ・当社は、マイクロンメモリ ジャパン株式会社から半導体テスト業務を継続的に受託しており、主要な取引先であります。
 - ・TeraPower Technology Inc. は当社の関係会社であります。
 - ・株式会社テラプローブ会津は当社の関係会社であり、当社は、同社との間で、資金の貸し付け、半導体テスト業務、並びに営業及び管理支援業務の取引関係があります。
 - ・各社外役員が兼務している又は兼務していた上記以外の他の会社と当社との間に特別な利害関係はありません。

なお、当社は、社外取締役又は社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準又は方針については、特段定めておりません。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係は、以下のとおりであります。

- ・内部監査室は、内部監査の状況について年2回取締役会に報告し、必要に応じて監査役会に報告しており、社外取締役及び社外監査役は必要に応じて意見を述べております。
- ・監査役は、監査法人との相互連携により、適宜監査役会において議論し、社外監査役は必要に応じて意見を述べております。

リスク管理体制の整備状況

当社は、会社全体のガバナンス体制構築のため、社内規則等を整備し、内部監査によってリスクの把握と改善を行っております。

当社は、Code of Conductを当社グループの全役職員が遵守するよう、コンプライアンスの徹底を図っております。加えて、当社の情報セキュリティを統括する組織として、情報セキュリティ委員会を設置しております。情報セキュリティ委員会は、情報セキュリティに関する規程類の整備、システムや体制の構築等の検討、諸施策の実施、運用見直しの指示など、その活動を通して、個人情報の保護と会社機密情報の漏洩防止の徹底を図っております。

さらに当社は、地震などの大規模災害による被災を想定し、速やかな事業再開を図るため、BCM（事業継続マネジメント）活動に取り組んでおり、その一環として事業継続計画（BCP）を策定しております。

役員の報酬等の内容

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

取締役報酬の総額	42,603千円	取締役(社外取締役を除く)	6名	:	37,797千円
		社外取締役	1名	:	4,806千円
監査役報酬の総額	17,100千円	監査役(社外監査役を除く)	0名	:	千円
		社外監査役	3名	:	17,100千円

ロ. 役員の報酬等の額の決定に関する方針

取締役に関しては、取締役会決議により、株主総会で決議された取締役報酬総額の枠内で、常勤・非常勤の別及び役職別の基本報酬の基準（金額レンジ）を設定し、個人別金額の決定は、当該基準の範囲において役員報酬諮問委員会への諮問を条件として社長に一任することとしております。

なお、社内取締役については、上期と下期それぞれの業績に応じて、半年間の基本報酬に一定の加減算を加えることとしております。

監査役に関しては、株主総会で決議された監査役報酬総額の枠内で、報酬諮問委員会の諮問を踏まえ、監査役の協議により決定されております。

株式の保有状況

該当事項はありません。

取締役の定数

当社の取締役は10名以内とすることを定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、及び累積投票によらないものとする旨、定款に定めております。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨、定款に定めております。これは、取締役及び監査役が期待される役割を十分に発揮できることを目的とするものであります。

責任限定契約の内容の概要

当社と取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）及び監査役は、会社法第427条第1項の規定により、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令に定める額としております。

株主総会の特別決議要件の変更

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨、定款に定めております。これは、株主総会における定足数を緩和させることにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

中間配当

当社は、取締役会の決議により、毎年6月30日を基準日として中間配当をすることができる旨、定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能とすることを目的とするものであります。

自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって自己の株式を取得することができる旨、定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	36,000	-	45,960	-
連結子会社	-	-	-	-
計	36,000	-	45,960	-

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社の台湾連結子会社は、当社の監査法人と同じアーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのメンバーファームである監査法人に対して、監査報酬及びその他の報酬として約4,707千円支払っております。

(当連結会計年度)

当社及び当社の台湾連結子会社は、当社の監査法人と同じアーンスト・アンド・ヤング・グローバル・リミテッドのメンバーファームである監査法人に対して、監査報酬及びその他の報酬として約1,626千円支払っております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬は、監査日数、事業の規模・特性等を勘案した監査公認会計士等の見積もりに基づき、精査を行い、監査役会の同意を得て決定しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

3．決算期変更について

平成29年6月29日開催の第12期定時株主総会における定款一部変更の決議により、決算期を3月31日から12月31日に変更いたしました。

したがって、当連結会計年度及び当事業年度は平成29年4月1日から平成29年12月31日までの9ヶ月間となっております。

4．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

また、公益財団法人財務会計基準機構及び監査法人等の主催する研修に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,942,599	11,810,551
売掛金	5,825,512	5,720,087
有価証券	1,000,000	-
製品	68,124	27,441
仕掛品	303,864	433,367
原材料及び貯蔵品	52,518	67,715
繰延税金資産	129,410	108,188
未収入金	767,518	987,205
その他	244,553	284,481
流動資産合計	20,334,101	19,439,039
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,109,734	4,377,554
機械装置及び運搬具（純額）	13,772,699	18,323,438
工具、器具及び備品（純額）	1,044,868	1,385,601
土地	1,606,675	1,639,622
建設仮勘定	5,419,984	8,602,291
有形固定資産合計	1、 2 24,953,961	1、 2 34,328,508
無形固定資産		
のれん	120,769	30,192
その他	205,894	194,451
無形固定資産合計	326,663	224,644
投資その他の資産		
破産更生債権等	194	177
繰延税金資産	890	420
その他	701,351	337,052
貸倒引当金	81	74
投資その他の資産合計	1 702,355	1 337,575
固定資産合計	25,982,980	34,890,727
資産合計	46,317,081	54,329,767

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	501,568	788,763
短期借入金	440,000	2,568,300
1年内返済予定の長期借入金	² 388,000	² 388,000
リース債務	609,927	501,492
未払金	1,505,604	2,455,508
未払法人税等	589,891	477,337
賞与引当金	674,667	610,033
繰延税金負債	5,556	585
その他	1,006,387	1,593,341
流動負債合計	5,721,603	9,383,363
固定負債		
長期借入金	² 11,632,239	² 14,388,286
リース債務	1,007,241	654,608
繰延税金負債	206,962	256,418
退職給付に係る負債	248,242	236,204
資産除去債務	13,635	13,812
その他	265,510	232,667
固定負債合計	13,373,832	15,781,997
負債合計	19,095,435	25,165,361
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,823,312	11,823,312
資本剰余金	11,380,267	11,380,267
利益剰余金	1,617,483	1,282,821
自己株式	128	128
株主資本合計	21,585,968	21,920,631
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	469,906	629,445
退職給付に係る調整累計額	88,704	27,261
その他の包括利益累計額合計	381,201	602,183
非支配株主持分	5,254,476	6,641,591
純資産合計	27,221,646	29,164,406
負債純資産合計	46,317,081	54,329,767

【連結損益及び包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	18,812,783	17,869,444
売上原価	1 14,481,463	1 14,191,899
売上総利益	4,331,320	3,677,544
販売費及び一般管理費	2, 3 1,997,066	2, 3 1,831,668
営業利益	2,334,254	1,845,876
営業外収益		
受取利息	4,232	3,587
持分法による投資利益	101,404	-
設備賃貸料	170,082	92,372
その他	176,899	59,671
営業外収益合計	452,619	155,632
営業外費用		
支払利息	109,244	126,783
貸与資産減価償却費	74,297	59,653
その他	63,456	24,298
営業外費用合計	246,998	210,735
経常利益	2,539,876	1,790,772
特別利益		
固定資産売却益	4 31,815	4 73,002
地方自治体助成金	12,512	-
段階取得に係る差益	1,629	-
新株予約権戻入益	51,269	-
特別利益合計	97,226	73,002
特別損失		
固定資産売却損	5 20,301	5 26,194
固定資産除却損	6 7,785	6 26,951
減損損失	7 147,684	7 -
事業所移転費用	8 -	8 74,786
特別損失合計	175,771	127,932
税金等調整前当期純利益	2,461,330	1,735,842
法人税、住民税及び事業税	415,313	512,334
法人税等調整額	15,594	71,147
法人税等合計	399,719	583,482
当期純利益	2,061,611	1,152,360
(内訳)		
親会社株主に帰属する当期純利益	1,242,931	334,662
非支配株主に帰属する当期純利益	818,680	817,697
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	544,440	312,821
退職給付に係る調整額	24,671	61,442
その他の包括利益合計	569,111	374,264
包括利益	9 2,630,722	9 1,526,624

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,545,266	555,644
非支配株主に係る包括利益	1,085,455	970,980

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	11,823,312	11,380,267	2,860,414	128	20,343,037
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純利益			1,242,931		1,242,931
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	1,242,931	-	1,242,931
当期末残高	11,823,312	11,380,267	1,617,483	128	21,585,968

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	192,241	113,375	78,866	35,608	3,196,260	23,653,772
当期変動額						
親会社株主に帰属する当期純利益						1,242,931
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	277,664	24,671	302,335	35,608	2,058,215	2,324,943
当期変動額合計	277,664	24,671	302,335	35,608	2,058,215	3,567,874
当期末残高	469,906	88,704	381,201	-	5,254,476	27,221,646

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	11,823,312	11,380,267	1,617,483	128	21,585,968
当期変動額					
親会社株主に帰属する当期純利益			334,662		334,662
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	334,662	-	334,662
当期末残高	11,823,312	11,380,267	1,282,821	128	21,920,631

	その他の包括利益累計額			新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	469,906	88,704	381,201	-	5,254,476	27,221,646
当期変動額						
親会社株主に帰属する当期純利益						334,662
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	159,538	61,442	220,981	-	1,387,115	1,608,096
当期変動額合計	159,538	61,442	220,981	-	1,387,115	1,942,759
当期末残高	629,445	27,261	602,183	-	6,641,591	29,164,406

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	2,461,330	1,735,842
減価償却費	5,490,808	5,338,379
減損損失	147,684	-
のれん償却額	-	90,576
株式報酬費用	15,660	-
新株予約権戻入益	51,269	-
貸倒引当金の増減額（は減少）	9	6
段階取得に係る差益	1,629	-
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	28,902	17,829
事業譲渡損失引当金の増減額（は減少）	175,408	-
賞与引当金の増減額（は減少）	205,975	74,931
受取利息	4,232	3,587
支払利息	109,244	126,783
持分法による投資損益（は益）	101,404	-
設備賃貸料	170,082	92,372
還付加算金	401	1,299
固定資産除売却損益（は益）	3,728	18,824
地方自治体助成金	12,512	-
売上債権の増減額（は増加）	273,719	159,401
破産更生債権等の増減額（は増加）	20	16
たな卸資産の増減額（は増加）	118,293	98,711
仕入債務の増減額（は減少）	868,283	286,532
その他の流動資産の増減額（は増加）	313,042	243,452
その他の流動負債の増減額（は減少）	104,545	31,631
その他の固定負債の増減額（は減少）	19,454	32,349
その他	9,577	9,298
小計	6,988,560	7,167,493
利息の受取額	4,574	3,600
利息の支払額	108,308	126,993
補助金の受取額	24,553	-
補償金の受取額	-	461,558
損害賠償金の支払額	48,399	667
法人税等の還付額	6,366	78,093
法人税等の支払額	389,035	712,728
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,478,309	6,870,355

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	7,800,000	4,300,000
定期預金の払戻による収入	7,900,000	4,800,000
有形固定資産の取得による支出	12,182,515	12,715,048
有形固定資産の売却による収入	297,092	114,986
無形固定資産の取得による支出	46,998	33,868
設備賃貸料の受取額	165,081	92,372
事業譲渡による収入	596,547	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	95,495	-
関係会社貸付けによる支出	1,045,000	-
関係会社貸付金の回収による収入	571,000	-
その他	30,607	24,368
投資活動によるキャッシュ・フロー	11,670,895	12,065,926
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	2,583,300	8,766,220
短期借入金の返済による支出	3,115,352	6,687,300
長期借入れによる収入	7,799,224	10,526,941
長期借入金の返済による支出	654,851	8,057,220
リース債務の返済による支出	1,044,081	461,737
セール・アンド・リースバック取引による収入	1,061,272	-
非支配株主からの払込みによる収入	1,067,308	721,941
非支配株主への配当金の支払額	94,548	305,806
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,602,270	4,503,038
現金及び現金同等物に係る換算差額	59,310	60,484
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,468,994	632,047
現金及び現金同等物の期首残高	7,073,604	9,542,599
現金及び現金同等物の期末残高	¹ 9,542,599	¹ 8,910,551

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数	2社
連結子会社の名称	TeraPower Technology Inc. 株式会社テラプローブ会津

2. 連結決算日の変更に関する事項

当連結会計年度において、当社及び当社の連結子会社である株式会社テラプローブ会津は、決算日を3月31日から12月31日に変更しております。これは、当社の親会社であるPowertech Technology Inc.と決算期を統一し、より効率的な事業運営を図るためであります。

この決算期変更に伴い、当連結会計年度における会計期間は9ヶ月となっております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1)重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）を採用しております。

デリバティブ

時価法を採用しております。

たな卸資産

A. 製品

先入先出法又は総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

B. 原材料

先入先出法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

C. 仕掛品

総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

D. 貯蔵品

最終仕入原価法又は総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物	2年～50年
機械装置及び運搬具	1年～15年
工具、器具及び備品	1年～15年

無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（10年以内）に基づいて償却しております。

投資その他の資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、貸与資産は経済的耐用年数を1年～40年として償却しております。

リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

(3)重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、破産更生債権等について個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度負担額を計上しております。

(4)退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(5)重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均為替相場により円貨に換算し、連結子会社の換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんは、1年間で償却しております。

(7)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっております。

(8)その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「為替差益」は、営業外収益の総額の100分の10以下となったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「為替差益」104,144千円、「その他」72,755千円は、「その他」176,899千円として組み替えております。

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外費用」の「休止資産減価償却費」は、営業外費用の総額の100分の10以下となったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」に表示していた「休止資産減価償却費」35,157千円、「その他」28,308千円は、「その他」63,456千円として組み替えております。

(会計上の見積りの変更)

(数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理年数の変更)

退職給付に係る会計処理における、数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理年数について、従来、従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(14年)で費用処理しておりましたが、平均残存勤務期間がこれを下回ったため、当連結会計年度より費用処理年数を10年に変更しております。

これにより、従来の費用処理年数によった場合に比べ、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ23,691千円減少しております。

なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

(連結貸借対照表関係)

1.有形固定資産及び投資その他の資産に対する減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	55,212,999千円	59,525,478千円
投資その他の資産の減価償却累計額	1,574,256	1,552,720

2.担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
建物及び構築物	2,181,333千円	2,805,779千円
土地	1,541,726	1,574,673
計	3,723,060	4,380,453

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
長期借入金	2,794,557千円	2,476,227千円

(連結損益及び包括利益計算書関係)

- 1 たな卸資産の期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額で記載されており、次の評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
	14,942千円	5,699千円

- 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
給与	557,977千円	448,115千円
賞与引当金繰入額	115,042	50,996
退職給付費用	35,254	30,768
外注費	237,273	288,128

- 3 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
	28,638千円	19,574千円

- 4 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
機械装置及び運搬具	30,158千円	73,002千円
工具、器具及び備品	1,656	-
計	31,815	73,002

- 5 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
機械装置及び運搬具	12,091千円	26,194千円
工具、器具及び備品	6,472	-
建設仮勘定	1,737	-
計	20,301	26,194

- 6 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
建物及び構築物	- 千円	14,500千円
機械装置及び運搬具	7,785	6,541
その他	-	5,910
計	7,785	26,951

7 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

場所	用途	種類	金額（千円）
熊本県葦北郡	処分予定資産	機械装置及び運搬具、工具器具及び備品、建設仮勘定	81,766
広島県東広島市	処分予定資産	機械装置及び運搬具	65,918
合 計			147,684

当社グループは、事業用資産については事業セグメントを基本単位としてグルーピングしており、重要な貸与資産、遊休資産及び処分予定資産については、個々の資産を単位としてグルーピングしております。

熊本県葦北郡、広島県東広島市の処分予定資産は、当初予定していた用途での利用見込みがなくなったことに伴い、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、処分予定資産の回収可能価額は、正味売却価額によって測定しております。処分予定資産の正味売却価値については、正味売却価額によって測定しており、他への転用や売却が困難であることから、備忘価額で算定しております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）

該当事項はありません。

8 事業所移転費用

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）

事業所移転費用は、当社の広島事業所の九州事業所への移転に伴う、設備移設費用等であります。

9 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
為替換算調整勘定：		
当期発生額	544,440千円	312,821千円
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	13,215	29,867
組替調整額	11,455	31,574
計	24,671	61,442
税効果調整前合計	569,111	374,264
税効果額	-	-
その他の包括利益合計	569,111	374,264

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	9,282,500	-	-	9,282,500
合計	9,282,500	-	-	9,282,500
自己株式				
普通株式	145	-	-	145
合計	145	-	-	145

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

第3回新株予約権は、平成29年3月7日付の定時取締役会にて、すべての新株予約権の償却を決議しました。
2010年新株予約権は、権利行使期間満了による権利失効により減少しました。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	9,282,500	-	-	9,282,500
合計	9,282,500	-	-	9,282,500
自己株式				
普通株式	145	-	-	145
合計	145	-	-	145

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
現金及び預金勘定	11,942,599千円	11,810,551千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	3,400,000	2,900,000
有価証券(譲渡性預金)	1,000,000	-
現金及び現金同等物	9,542,599	8,910,551

2. 重要な非資金取引の内容

ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
ファイナンス・リース取引に係る資産及び債務の額	1,063,400千円	-千円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(1) 所有権移転ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、メモリ事業及びシステムLSI事業における生産設備(機械装置及び運搬具)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「3.(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載しております。

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

該当事項はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については銀行借入及びリースによる方針であります。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

売掛金及び未収入金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規則に沿ってリスク低減を図っております。

買掛金、短期借入金、未払金及び未払法人税等の支払期日は、1年以内であります。

借入金の使途は運転資金(主として短期)及び設備投資資金(長期)であります。変動金利の借入金は金利の変動リスクに晒されております。また営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、各社が月次に資金繰り計画を作成するなどの方法により、これらのリスクを管理しております。

ファイナンス・リース取引に係るリース債務の使途は、主に設備投資資金であり、これらに係る流動性リスクは月次に資金繰り表を作成するなどの方法により管理しております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクを管理するための先物為替予約取引であり、社内規程に従って行っております。

(3) 信用リスクの集中

当連結会計年度の連結決算日現在における営業債権のうち、6.6%が特定の大口顧客に対するものであります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	連結貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	11,942,599	11,942,599	-
(2) 受取手形及び売掛金	5,825,512	5,825,512	-
(3) 有価証券	1,000,000	1,000,000	-
(4) 未収入金	767,518	767,518	-
(5) 破産更生債権等 貸倒引当金(*1)	194 81		
	113	113	-
資産計	19,535,743	19,535,743	-
(6) 支払手形及び買掛金	501,568	501,568	-
(7) 短期借入金	440,000	440,000	-
(8) 未払金	1,505,604	1,505,604	-
(9) 未払法人税等	589,891	589,891	-
(10) リース債務 (1年内返済予定のリース債務 を含む)	1,617,169	1,623,511	6,342
(11) 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金 を含む)	12,020,239	12,021,038	799
負債計	16,674,473	16,681,614	7,140
(12) デリバティブ取引(*2)	62,449	62,449	-

(*1) 破産更生債権等に対する、個別貸倒引当金を控除しております。

(*2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

当連結会計年度(平成29年12月31日)

	連結貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	11,810,551	11,810,551	-
(2) 売掛金	5,720,087	5,720,087	-
(3) 未収入金	987,205	987,205	-
(4) 破産更生債権等 貸倒引当金(*1)	177 74		
	102	102	-
資産計	18,517,946	18,517,946	-
(5) 買掛金	788,763	788,763	-
(6) 短期借入金	2,568,300	2,568,300	-
(7) 未払金	2,455,508	2,455,508	-
(8) 未払法人税等	477,337	477,337	-
(9) リース債務 (1年内返済予定のリース債務 を含む)	1,156,101	1,159,796	3,694
(10) 長期借入金 (1年内返済予定の長期借入金 を含む)	14,776,286	14,778,350	2,063
負債計	22,222,297	22,228,056	5,758
(11) デリバティブ取引(*2)	3,096	3,096	-

(*1) 破産更生債権等に対する、個別貸倒引当金を控除しております。

(*2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

(注)1. 金融商品の時価の算定方法並びにデリバティブ取引に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金(3) 未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 破産更生債権等

破産更生債権等については、連結決算日における連結貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額にほぼ等しいことから、当該価額をもって時価としております。

(5) 買掛金、(6) 短期借入金、(7) 未払金(8) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(9) リース債務(1年内返済予定のリース債務を含む)

これらの時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

(10) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)

長期借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利が反映されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。また、固定金利によるものは、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定してあります。

(11) デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照ください。

3. 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度（平成29年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	11,942,599	-	-	-
受取手形及び売掛金	5,825,512	-	-	-
有価証券				
満期保有目的の債券				
コマーシャル・ペーパー	-	-	-	-
譲渡性預金	1,000,000	-	-	-
未収入金	767,518	-	-	-
合計	19,535,629	-	-	-

(注) 破産更生債権等194千円は、償還予定額が見込めないため、上記の表に含めておりません。

当連結会計年度（平成29年12月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	11,810,551	-	-	-
受取手形及び売掛金	5,720,087	-	-	-
有価証券				
満期保有目的の債券				
コマーシャル・ペーパー	-	-	-	-
譲渡性預金	-	-	-	-
未収入金	987,205	-	-	-
合計	18,517,844	-	-	-

(注) 破産更生債権等177千円は、償還予定額が見込めないため、上記の表に含めておりません。

4. リース債務、借入金及びその他有利子負債の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度（平成29年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	440,000	-	-	-	-	-
長期借入金	388,000	9,161,539	300,000	2,060,700	110,000	-
リース債務	609,927	468,355	348,434	152,686	37,766	-

当連結会計年度（平成29年12月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	2,568,300	-	-	-	-	-
長期借入金	388,000	11,177,911	1,845,615	442,440	317,440	604,880
リース債務	501,492	389,434	192,402	72,771	-	-

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成29年3月31日)

	種類	連結貸借対照 表 計上額(千 円)	時価(千円)	差額(千円)
時価が連結貸借対照 表額を超えるもの	(1)国債・地方債等	-	-	-
	(2)社債	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	-	-	-
時価が連結貸借対照 表計上額を超えない もの	(1)国債・地方債等	-	-	-
	(2)社債	-	-	-
	(3)その他	1,000,000	1,000,000	-
	小計	1,000,000	1,000,000	-
合計		1,000,000	1,000,000	-

当連結会計年度(平成29年12月31日)

	種類	連結貸借対照 表 計上額(千 円)	時価(千円)	差額(千円)
時価が連結貸借対照 表額を超えるもの	(1)国債・地方債等	-	-	-
	(2)社債	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	-	-	-
時価が連結貸借対照 表計上額を超えない もの	(1)国債・地方債等	-	-	-
	(2)社債	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		-	-	-

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	種類	当連結会計年度(平成29年3月31日)			
		契約額等 (千円)	契約額等の うち1年超 (千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引以外 の取引	為替予約取引 売建 米ドル	3,634,541	-	62,723	62,723
	買建 日本円	16,098	-	273	273
	合計	3,650,640	-	62,449	62,449

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成29年12月31日)

区分	種類	当連結会計年度(平成29年12月31日)			
		契約額等 (千円)	契約額等の うち1年超 (千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引以外 の取引	為替予約取引 売建 米ドル	2,749,692	-	2,702	2,702
	買建 日本円	247,000	-	394	394
	合計	2,996,692	-	3,096	3,096

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しており、連結子会社は確定拠出制度を採用しております。

確定給付企業年金制度では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。

2. 確定給付制度

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
退職給付債務の期首残高	641,274千円	736,998千円
勤務費用	86,291	64,920
利息費用	3,188	3,227
数理計算上の差異の発生額	35,025	11,129
退職給付の支払額	28,781	30,388
退職給付債務の期末残高	736,998	763,628

(2)年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
年金資産の期首残高	408,718千円	488,756千円
期待運用収益	10,217	9,164
数理計算上の差異の発生額	48,241	18,738
事業主からの拠出額	44,921	36,871
退職給付の支払額	23,343	26,105
年金資産の期末残高	488,756	527,424

(3)退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
積立型制度の退職給付債務	736,998千円	763,628千円
年金資産	488,756	527,424
	248,242	236,204
非積立型制度の退職給付債務	-	-
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	248,242	236,204
退職給付に係る負債	248,242	236,204
退職給付に係る資産	-	-
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	248,242	236,204

(4)退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
勤務費用	86,291千円	64,920千円
利息費用	3,188	3,227
期待運用収益	10,217	9,164
数理計算上の差異の費用処理額	3,745	5,999
過去勤務費用の費用処理額	7,710	37,574
確定給付制度に係る退職給付費用	90,717	90,558

(5)退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
過去勤務費用	7,710千円	37,574千円
数理計算上の差異	16,961	23,868
合計	24,671	61,442

(6)退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
未認識過去勤務費用	30,582千円	6,991千円
未認識数理計算上の差異	58,122	34,253
合計	88,704	27,261

(7)年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
円貨建公社債	63.3%	57.6%
円貨建株式	16.5%	18.0%
外貨建株式	11.0%	14.0%
外貨建公社債	7.9%	6.0%
その他	1.3%	4.4%
合計	100.0%	100.0%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の期待運用収益率は、従業員の年齢構成により将来の運用期間を考慮した上で、年金資産のポートフォリオを選択し、当該ポートフォリオで期待される収益率を考慮して決定しております。

(8)数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
割引率	0.5%	0.3%
長期期待運用収益率	2.5%	2.5%
予想昇給率	2.6%	2.9%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度72,497千円、当連結会計年度98,931千円です。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	81,353千円	37,821千円
退職給付に係る負債	48,595	63,643
前受金	-	141,652
減価償却費	125,097	179,163
減損損失	574,910	531,939
繰越欠損金	1,260,655	1,248,081
長期預り金	4,288	4,288
固定資産未実現利益	107,812	80,859
子会社評価差額	-	117,549
その他	155,558	131,290
繰延税金資産小計	2,358,272	2,536,290
評価性引当額	2,069,528	2,293,730
繰延税金資産合計	288,743	242,559
繰延税金負債		
特別償却準備金	111,618	82,490
圧縮記帳	32,784	21,289
子会社評価差額	33,715	56,494
子会社の留保利益金	183,819	219,115
その他	9,023	11,564
繰延税金負債合計	370,960	390,954
繰延税金負債の純額	82,217	148,394

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金負債の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	129,410千円	108,188千円
固定資産 - 繰延税金資産	890	420
流動負債 - 繰延税金負債	5,556	585
固定負債 - 繰延税金負債	206,962	256,418

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年12月31日)
法定実効税率	30.7%	30.7%
(調整)		
外国源泉税	1.2	2.9
住民税均等割	0.5	0.6
評価性引当金	4.9	8.5
海外との税率差異	11.3	16.4
海外子会社の未配分利益	2.9	2.0
税率変更による影響	5.2	-
未実現利益税効果未認識額	1.7	1.7
税額控除	1.5	-
その他	2.1	3.6
税効果会計適用後の法人税等の負担率	16.2%	33.6%

3. 源泉税の税率の変更による繰延税金負債の金額の修正

(台湾の未処分利益追加税の外国株主税額控除の制度の廃止について)

台湾財政部が平成29年9月に発表した所得税改正草案が、平成30年1月18日に立法院で最終可決され、同年2月7日に公布、平成30年1月1日より遡及適用されることとなり、外国株主税額控除制度が廃止され、配当源泉税からの控除が不能となります。これに伴い、台湾子会社の利益留保金に係る連結固有の一時差異について、従来の5%から10%に変更されます。

なお、変更後の税率による影響額は算定中であります。

(企業結合等関係)

(株式の追加取得による子会社化)

1. 企業結合に係る暫定的な会計処理の確定

平成29年2月1日に行われた株式会社テラプロープ会津との企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当連結会計年度において確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、暫定的に算定されたのれんの修正額は、次のとおりであります。

(修正科目)	(のれんの修正金額)
負ののれん(修正前)	47,275千円
有形固定資産	46,344千円
無形固定資産	87,984千円
繰延税金負債	33,715千円
<u>修正金額合計</u>	<u>168,044千円</u>
のれん(修正後)	120,769千円

この結果、暫定的に算定した際は、負ののれんを47,275千円計上していましたが、会計処理の確定により120,768千円のものれんを計上することとなりました。またこの会計処理の確定により、前連結会計年度末の建物及び構築物が159,270千円、工具器具備品が30,681千円、無形固定資産の「その他」が87,984千円それぞれ減少し、機械装置及び運搬具が140,506千円、建設仮勘定が3,100千円、固定負債の繰延税金負債が33,715千円それぞれ増加しております。

2. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

120,769千円

(2) 発生原因

主として今後の事業展開により期待される将来の超過収益力であります。

(3) 償却方法及び償却期間

1年にわたる均等償却

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

製造施設の不動産賃貸契約に伴う現状回復義務、空調設備廃棄時のフロンガス除却義務及び本社オフィスビルの不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から15～25年と見積り、割引率は1.3～2.0%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
期首残高	28,679千円	13,635千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	-	-
時の経過による調整額	231	176
資産除去債務の履行による減少額	-	-
会社分割による減少額	15,275	-
期末残高	13,635	13,812

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は製品・サービス別の事業部を置き、各事業部は取り扱う製品・サービスについて関係会社と連携し、国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は事業部を基礎とした製品・サービス別のセグメントを認識した上で、経済的特徴が概ね類似しているセグメントについては集約し、「メモリ事業」及び「システムLSI事業」の2つを報告セグメントとしております。

「メモリ事業」は、DRAM等のメモリ品のウエハテスト及び開発受託を行っております。「システムLSI事業」は、イメージセンサ、マイコン、アナログ等の各種半導体のウエハテスト、ファイナルテスト、テスト開発を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準を除き、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算については、売上高、利益又は損失、有形固定資産及び無形固定資産の増加額は、社内で決定した固定レートにより換算を行い、資産は、期末日の直物為替相場により換算しております。

報告されているセグメント利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

報告されているセグメント資産には、棚卸資産、有形固定資産及び無形固定資産を配分しております。

事業活動に直接的に関与していないセグメント資産については保有する各報告セグメントに配分しておりますが、該当する資産に関連する費用については報告セグメントに配分しておりません。

「企業結合等関係」の「1. 企業結合に係る暫定的な処理の確定」に記載の見直しに伴い、前連結会計年度のセグメント情報については、当該見直し反映後のものを記載しております。

「会計上の見積りの変更」に記載のとおり、退職給付に係る会計処理における、数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理年数について、従来、従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(14年)で費用処理しておりましたが、平均残存勤務期間がこれを下回ったため、当連結会計年度より費用処理年数を10年に変更しております。

これにより、従来費用処理年数によった場合に比べ、当連結会計年度のセグメント利益が、「メモリ事業」において7,923千円、「システムLSI事業」において8,805千円、「調整額」において6,961千円それぞれ減少しております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	連結財務諸表 計上額
	メモリ事業	システムLSI 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	11,398,567	7,179,117	18,577,685	235,098	18,812,783
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	11,398,567	7,179,117	18,577,685	235,098	18,812,783
セグメント利益	2,678,185	855,157	3,533,343	1,199,089	2,334,254
セグメント資産	9,333,539	15,465,379	24,798,918	21,518,163	46,317,081
その他の項目					
減価償却費	2,964,126	2,548,305	5,512,432	136,364	5,376,067
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	3,289,806	6,468,507	9,758,314	2,380,479	12,138,793

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	連結財務諸表 計上額
	メモリ事業	システムLSI 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,385,361	9,333,637	17,718,998	150,445	17,869,444
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,283	-	1,283	1,283	-
計	8,386,645	9,333,637	17,720,282	149,161	17,869,444
セグメント利益	1,437,188	1,657,106	3,094,294	1,248,418	1,845,876
セグメント資産	10,341,107	21,263,714	31,604,821	22,724,945	54,329,767
その他の項目					
減価償却費	2,523,848	2,848,453	5,372,301	25,148	5,347,153
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	2,816,658	8,291,976	11,108,634	2,787,082	13,895,717

４．報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	18,577,685	17,720,282
為替換算差額	235,098	150,445
セグメント間取引消去	-	1,283
連結財務諸表の売上高	18,812,783	17,869,444

(単位：千円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	3,533,343	3,094,294
為替換算差額	56,146	31,181
連結消去	276,986	120,503
全社費用（注）	1,532,222	1,400,103
連結財務諸表の営業利益	2,334,254	1,845,876

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに属していない一般管理費であります。

(単位：千円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	24,798,918	31,604,821
連結消去	623,829	485,768
全社資産（注）	22,141,993	23,210,713
連結財務諸表の資産	46,317,081	54,329,767

(注) 全社資産は、主に棚卸資産を除く流動資産であります。

(単位：千円)

その他の項目	報告セグメント計		換算差額		連結消去		全社（注）		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	5,512,432	5,372,301	68,216	45,023	242,649	92,484	38,068	22,312	5,376,067	5,347,153
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	9,758,314	11,108,634	19,095	5,439	-	-	2,361,383	2,792,522	12,138,793	13,895,717

(注) 全社の減価償却費、全社の有形固定資産及び無形固定資産の増加額は、主に一般管理費部門が使用するシステム分であります。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1. 製品及びサービスに関する情報

(単位：千円)

	メモリ事業	システムLSI事業	その他	合計
外部顧客への売上高	11,517,511	7,274,468	20,804	18,812,783

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	台湾	アジア	北米	合計
11,342,071	6,146,671	248,976	1,075,065	18,812,783

(注) 各区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

- (1) アジア・・・中国、韓国
- (2) 北米・・・アメリカ

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	台湾	合計
7,848,561	17,105,400	24,953,961

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客先	売上高	関連するセグメント名
マイクロンメモリ ジャパン株式会社	5,843,561	メモリ事業

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）

1. 製品及びサービスに関する情報

(単位：千円)

	メモリ事業	システムLSI事業	その他	合計
外部顧客への売上高	8,443,266	9,403,271	22,906	17,869,444

2. 地域ごとの情報

(1)売上高

(単位：千円)

日本	台湾	アジア	北米	合計
10,180,955	5,325,335	368,236	1,994,917	17,869,444

(注) 各区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

- (1) アジア・・・主に中国、韓国
- (2) 北米・・・アメリカ

(2)有形固定資産

(単位：千円)

日本	台湾	合計
8,216,636	26,111,871	34,328,508

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客先	売上高	関連するセグメント名
マイクロンメモリ ジャパン株式会社	3,410,455	メモリ事業
ルネサスエレクトロニクス株式会社	2,792,010	システムLSI事業
Cypress Semiconductor Corporation	1,824,508	システムLSI事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

(単位：千円)

	メモリ事業	システムLSI事業	その他	合計
減損損失	65,918	81,766	-	147,684

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

(単位：千円)

	メモリ事業	システムLSI事業	その他	合計
当期償却額	-	-	-	-
当期末残高	-	-	120,769	120,769

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）

(単位：千円)

	メモリ事業	システムLSI事業	その他	合計
当期償却額	-	-	90,576	90,576
当期末残高	-	-	30,192	30,192

【報告セグメントごとの負のれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の関係会社	マイクロンメモリ ジャパン株式会社	東京都中央区	30,000	半導体製品の開発・設計、製造、販売	(被所有) 直接39.6	ウエハテスト業務受託設備の賃借	製品の販売(注1)	5,789,561	売掛金	435,541
							設備賃借料、電力料他の立替(注2)		1,382,221	未払費用
							破産更生債権等(注3)			170
子会社	株式会社テラプローブ会津	福島県会津若松市	45	半導体ウエハテスト受託	(所有) 直接100.0	設備の賃貸資金の貸付	設備の賃貸	50,062	未収入金	4,514
							資金の貸付(注4)	1,045,000	関係会社貸付金	600,000

上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 製品の販売価格は、総コストを勘案して交渉により決定しております。
 2. 設備賃借料については、対象資産の償却費に固定資産税、保険料、金利相当額を加えた価格で取引を行っております。電力料については、当社の電力使用量に応じた電気料金相当額の請求となっております。他の立替の主な要素である業務委託料については、当社に対する用役提供の割合に応じた人件費相当額の請求となっております。
 3. マイクロンメモリ ジャパン株式会社への破産更生債権等に対し、70千円の貸倒引当金を計上しております。また当連結会計年度において8千円の貸倒引当金戻入額を計上しております。なお、貸借対照表及び損益計算書上の計上額との差額は、治工具売却に伴うものであります。
 4. 資金の貸付については、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しております。

当連結会計年度（自平成29年4月1日 至平成29年12月31日）

1. 関連当事者との取引

該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

Powertech Technology Inc. (台湾証券取引所に上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
1株当たり純資産額	2,366円55銭	2,426円41銭
1株当たり当期純利益金額	133円90銭	36円05銭

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。
2. 前連結会計年度の1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額は、「企業結合等関係」の「1.企業結合に係る暫定的な会計処理の確定」に記載の見直しが反映されてのちの金額により算定しております。
3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	1,242,931	334,662
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,242,931	334,662
期中平均株式数(株)	9,282,355	9,282,355

(重要な後発事象)

(資本準備金の額の減少及び剰余金の処分)

当社は、平成30年2月23日開催の取締役会において、平成30年3月29日開催の第13期定時株主総会に資本準備金の額の減少及び剰余金の処分に関する議案を付議することを決議し、同株主総会において承認可決されました。

1. 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分の目的

当社は、平成29年12月期末時点の単体決算において、4,004,884千円の繰越利益剰余金の欠損を計上しております。つきましては、この繰越利益剰余金の一部填補及び今後の資本政策の柔軟性を向上させることを目的として、資本準備金の額の減少及び剰余金の処分を行うものであります。

2. 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分の要領

(1) 資本準備金の減少に関する事項

会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金3,768,945千円を減少し、その同額をその他資本剰余金に振替えるものであります。

減少する準備金の項目およびその額

資本準備金11,380,267千円のうち、3,768,945千円

なお、減少後の資本準備金の額は7,611,322千円となります。

増加する剰余金の項目及びその額

その他資本剰余金 3,768,945千円

(2) 剰余金の処分に関する事項

会社法第452条の規定に基づき、上記(1)による振替後のその他資本剰余金3,768,945千円の全額を繰越利益剰余金へ振替え、欠損を補てんするものであります。

減少する剰余金の項目及びその額

その他資本剰余金 3,768,945千円

増加する剰余金の項目及びその額

繰越利益剰余金 3,768,945千円

増減後の剰余金の残高

その他資本剰余金 0円

繰越利益剰余金 2,486,124千円

3. 日程

取締役会決議日	平成30年2月23日
定時株主総会決議日	平成30年3月29日
債権者異議申述公告日(予定)	平成30年3月30日
債権者異議申述最終期日(予定)	平成30年5月1日
効力発生日(予定)	平成30年6月30日

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	440,000	2,568,300	1.00	-
1年以内に返済予定の長期借入金	388,000	388,000	0.80	-
1年以内に返済予定のリース債務	609,927	501,492	1.14	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	11,632,239	14,388,286	1.20	平成31年～36年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,007,241	654,608	1.03	平成31年～33年
合計	14,077,407	18,500,687	-	-

(注) 1. 平均利率については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は、以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	11,177,911	1,845,615	442,440	317,440
リース債務	389,434	192,402	72,771	-

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	5,948,454	11,866,696	17,869,444
税金等調整前四半期(当期)純利益金額(千円)	592,627	1,118,828	1,735,842
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金額(千円)	98,760	181,561	334,662
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	10円64銭	19円56銭	36円05銭

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期
1株当たり四半期純利益金額(円)	10円64銭	8円92銭	16円49銭

(注)当連結会計年度は、決算期変更により平成29年4月1日から平成29年12月31日までの9ヶ月間となっております。

平成29年2月1日に行われた株式会社テラプローブ会津との企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当連結会計年度において確定しており、第1四半期及び第2四半期の関連する数値について暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

決算日後の状況

特記事項はありません。

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,866,643	9,763,994
売掛金	1 2,957,782	1 2,775,748
有価証券	1,000,000	-
製品	47,883	4,881
仕掛品	141,270	171,538
原材料及び貯蔵品	49,963	66,216
繰延税金資産	96,322	105,804
関係会社短期貸付金	1 600,000	1 680,000
未収入金	1 587,161	1 561,537
その他	94,209	48,200
流動資産合計	14,441,234	14,177,921
固定資産		
有形固定資産		
建物	918,282	1,559,118
構築物	9,710	9,203
機械及び装置	5,691,795	4,715,261
工具、器具及び備品	727,482	956,849
土地	64,948	64,948
建設仮勘定	135,597	674,215
有形固定資産合計	7,547,815	7,979,595
無形固定資産		
ソフトウェア	199,998	175,804
その他	5,895	7,427
無形固定資産合計	205,894	183,231
投資その他の資産		
関係会社株式	2,693,843	3,445,251
破産更生債権等	1 194	177
その他	449,723	312,465
貸倒引当金	81	74
投資その他の資産合計	3,143,680	3,757,819
固定資産合計	10,897,389	11,920,647
資産合計	25,338,624	26,098,569

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1 500,836	1 758,264
短期借入金	440,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	388,000	388,000
リース債務	599,347	490,500
未払金	394,039	1,614,265
未払費用	1 505,168	1 457,547
未払法人税等	59,537	65,438
賞与引当金	215,468	96,088
前受金	1,084	2 462,492
その他	69,423	120,012
流動負債合計	3,172,907	4,752,609
固定負債		
長期借入金	1,008,000	717,000
リース債務	978,211	633,226
繰延税金負債	96,322	105,804
退職給付引当金	159,538	208,942
資産除去債務	13,635	13,812
その他	265,510	232,667
固定負債合計	2,521,218	1,911,453
負債合計	5,694,125	6,664,062
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,823,312	11,823,312
資本剰余金		
資本準備金	11,380,267	11,380,267
資本剰余金合計	11,380,267	11,380,267
利益剰余金		
その他利益剰余金		
特別償却準備金	253,860	187,375
圧縮記帳積立金	74,555	48,564
繰越利益剰余金	3,887,369	4,004,884
利益剰余金合計	3,558,953	3,768,945
自己株式	128	128
株主資本合計	19,644,499	19,434,506
純資産合計	19,644,499	19,434,506
負債純資産合計	25,338,624	26,098,569

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成29年12月31日)
売上高	1 11,470,223	1 8,133,262
売上原価	1 9,769,773	1 7,432,762
売上総利益	1,700,449	700,499
販売費及び一般管理費	1, 2 1,543,481	1, 2 1,164,975
営業利益又は営業損失()	156,968	464,475
営業外収益		
受取利息	1,698	6,269
有価証券利息	1,679	-
設備賃貸料	139,908	129,538
受取配当金	98,407	318,288
受取保険金	30,119	-
その他	27,953	34,202
営業外収益合計	299,767	488,298
営業外費用		
支払利息	29,278	19,121
貸与資産減価償却費	64,369	59,653
休止固定資産減価償却費	35,147	16,780
為替差損	14,092	-
その他	25,800	14,804
営業外費用合計	168,689	110,358
経常利益又は経常損失()	288,045	86,536
特別利益		
固定資産売却益	271,689	76,598
地方自治体助成金	12,512	-
新株予約権戻入益	51,269	-
特別利益合計	335,470	76,598
特別損失		
固定資産売却損	8,327	24,758
固定資産除却損	7,785	26,951
減損損失	147,684	-
事業所移転費用	-	74,786
特別損失合計	163,797	126,496
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	459,718	136,434
法人税、住民税及び事業税	42,498	73,558
法人税等合計	42,498	73,558
当期純利益又は当期純損失()	417,219	209,992

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金			
				特別償却準備金	圧縮記帳積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	11,823,312	11,380,267	11,380,267	355,650	107,678	4,439,502	3,976,172
当期変動額							
当期純利益						417,219	417,219
特別償却準備金の取崩				101,789		101,789	
圧縮記帳積立金の取崩					33,123	33,123	
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	-	-	101,789	33,123	552,132	417,219
当期末残高	11,823,312	11,380,267	11,380,267	253,860	74,555	3,887,369	3,558,953

	株主資本		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計		
当期首残高	128	19,227,279	35,608	19,262,887
当期変動額				
当期純利益		417,219		417,219
特別償却準備金の取崩				
圧縮記帳積立金の取崩				
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			35,608	35,608
当期変動額合計		417,219	35,608	381,611
当期末残高	128	19,644,499	-	19,644,499

当事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金			利益剰余金合計
				特別償却準備金	圧縮記帳積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	11,823,312	11,380,267	11,380,267	253,860	74,555	3,887,369	3,558,953
当期変動額							
当期純損失()						209,992	209,992
特別償却準備金の取崩				66,485		66,485	
圧縮記帳積立金の取崩					25,991	25,991	
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	-	-	66,485	25,991	117,515	209,992
当期末残高	11,823,312	11,380,267	11,380,267	187,375	48,564	4,004,884	3,768,945

	株主資本		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計		
当期首残高	128	19,644,499	-	19,644,499
当期変動額				
当期純損失()		209,992		209,992
特別償却準備金の取崩				
圧縮記帳積立金の取崩				
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)				
当期変動額合計	-	209,992	-	209,992
当期末残高	128	19,434,506	-	19,434,506

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(重要な会計方針)

1. 決算日の変更について

当事業年度において、当社は、決算日を3月31日から12月31日に変更しております。これは、当社の親会社であるPowertech Technology Inc.と決算期を統一し、より効率的な事業運営を図るためであります。

この決算期変更に伴い、当事業年度における会計期間は9ヶ月となっております。

2. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)を採用しております。

(2) デリバティブ等の評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

(3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

製品

先入先出法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

原材料

先入先出法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

仕掛品

総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 2年～50年

構築物 7年～30年

機械及び装置 1年～15年

工具、器具及び備品 1年～15年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(10年以内)に基づいて償却しております。

(3) 投資その他の資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、貸与資産は経済的耐用年数を1～7年として償却しております。

(4) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、破産更生債権等について個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場より円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表関係)

前事業年度まで流動負債の「その他」に含めて表示しておりました「前受金」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より区分掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替を行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において流動負債の「その他」に表示していた70,508千円は、「前受金」1,084千円、「その他」69,423千円として組み替えております。

(会計上の見積りの変更)

(数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理年数の変更)

退職給付に係る会計処理における、数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理年数について、従来、従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(14年)で費用処理しておりましたが、平均残存勤務期間がこれを下回ったため、当事業年度より費用処理年数を10年に変更しております。

これにより、従来の費用処理年数によって場合に比べ、当事業年度の営業損失、経常損失及び税引き前当期純損失は、それぞれ23,691千円増加しております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
短期金銭債権	1,157,613千円	820,783千円
長期金銭債権	194	-
短期金銭債務	156,168	102,874

2 前受金

当事業年度の前受金462,492千円には、マイクロンメモリ ジャパン株式会社との建物賃貸借契約の変更に伴う補償金の一部受領額461,558千円が含まれております。

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれています。

	前事業年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当事業年度 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
関係会社への売上高	5,904,627千円	886,180千円
仕入高、販売費及び一般管理費	1,280,787	57,373
営業取引以外の取引による取引高	2,822,783	2,711,939

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度15%、当事業年度15%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度85%、当事業年度85%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当事業年度 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
給与	450,148千円	312,258千円
賞与	52,405	58,106
賞与引当金繰入額	72,244	20,234
役員報酬	111,201	77,026
退職給付費用	35,254	30,768
旅費交通費	116,259	83,055
減価償却費	29,349	13,601
外注費	193,850	256,631
租税公課	91,650	87,840
法定福利費	115,176	80,367

(有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は次の通りであります。

(単位:千円)

区分	前事業年度末 (平成29年3月31日)	当事業年度末 (平成29年12月31日)
子会社株式	2,693,843	3,445,251
計	2,693,843	3,445,251

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	66,127千円	29,489千円
退職給付引当金	48,595	63,643
減価償却費	125,097	179,163
減損損失	574,910	531,939
繰越欠損金	1,260,655	1,248,081
前受金	-	141,652
その他	139,319	131,677
繰延税金資産小計	2,214,705	2,325,650
評価性引当額	2,069,528	2,219,846
繰延税金資産合計	145,176	105,804
繰延税金負債		
特別償却準備金	111,618	82,490
圧縮記帳	32,784	21,289
その他	774	2,024
繰延税金負債合計	145,176	105,804
繰延税金資産の純額	-	-

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成29年12月31日)
法定実効税率		
(調整)	30.7%	30.7%
永久に損金に算入されない項目	3.7	10.4
永久に益金に算入されない項目	8.2	79.2
外国源泉税	6.6	36.6
法人住民税均等割	2.7	7.3
評価性引当額	26.2	109.2
その他	0.1	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	9.2%	53.9%

(企業結合等関係)

連結財務諸表の「注記事項(企業結合関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

(資本準備金の額の減少及び剰余金の処分)

当社は、平成30年2月23日開催の取締役会において、平成30年3月29日開催の第13期定時株主総会に資本準備金の額の減少及び剰余金の処分に関する議案を付議することを決議し、同株主総会において承認可決されました。

1. 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分の目的

当社は、平成29年12月期末時点の単体決算において、4,004,884千円の繰越利益剰余金の欠損を計上しております。つきましては、この繰越利益剰余金の一部填補及び今後の資本政策の柔軟性を向上させることを目的として、資本準備金の額の減少及び剰余金の処分を行うものであります。

2. 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分の要領

(1) 資本準備金の減少に関する事項

会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金3,768,945千円を減少し、その同額をその他資本剰余金に振替えるものであります。

減少する準備金の項目およびその額

資本準備金11,380,267千円のうち、3,768,945千円

なお、減少後の資本準備金の額は7,611,322千円となります。

増加する剰余金の項目及びその額

その他資本剰余金 3,768,945千円

(2) 剰余金の処分に関する事項

会社法第452条の規定に基づき、上記(1)による振替後のその他資本剰余金3,768,945千円の全額を繰越利益剰余金へ振替え、欠損を補てんするものであります。

減少する剰余金の項目及びその額

その他資本剰余金 3,768,945千円

増加する剰余金の項目及びその額

繰越利益剰余金 3,768,945千円

増減後の剰余金の残高

その他資本剰余金 0円

繰越利益剰余金 235,939千円

なお、上記の結果、繰越利益剰余金に特別償却準備金及び圧縮記帳積立金を加算した利益剰余金の額は0円となります。

3. 日程

取締役会決議日	平成30年2月23日
定時株主総会決議日	平成30年3月29日
債権者異議申述公告日(予定)	平成30年3月30日
債権者異議申述最終期日(予定)	平成30年5月1日
効力発生日(予定)	平成30年6月30日

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	918,282	780,246	14,493 (-)	124,917	1,559,118	1,126,313
	構築物	9,710	-	6 (-)	500	9,203	31,340
	機械及び装置	5,691,795	1,089,178	32,438 (-)	2,033,273	4,715,261	42,120,949
	工具、器具及び備品	727,482	449,387	5,910 (-)	214,110	956,849	3,155,391
	土地	64,948	-	- (-)	-	64,948	-
	建設仮勘定	135,597	2,780,561	2,241,942 (-)	-	674,215	-
	計	7,547,815	5,099,372	2,294,791 (-)	2,372,800	7,979,595	46,433,994
無形固定資産	ソフトウェア	199,998	23,149	- (-)	47,343	175,804	916,979
	ソフトウェア仮勘定	3,666	15,002	13,145 (-)	-	5,524	-
	その他	2,229	-	- (-)	325	1,903	2,635
	計	205,894	38,151	13,145 (-)	47,668	183,231	919,614

(注) 1. 「当期減少額」欄の()内は内書で、減損損失に計上しております。

2. 当期増加額の内容は、以下のとおりであります。

建物	建設仮勘定からの振替	780,246千円
機械及び装置	建設仮勘定からの振替	1,008,256千円
工具、器具及び備品	建設仮勘定からの振替	441,366千円
建設仮勘定	生産設備の取得	2,780,561千円

3. 当期減少額の内容は、以下のとおりであります。

建設仮勘定	本勘定への振替額	2,241,942千円
-------	----------	-------------

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	81	-	6	74
賞与引当金	215,468	96,088	215,468	96,088

(注) 貸倒引当金の当期減少額は、個別債権の回収、売却及び債務免除を行ったことによる取崩額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年1月1日から同年12月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了日の翌日から3ヶ月以内
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日 12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託にかかる手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	本会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL : http://www.teraprobe.com/
株主に対する特典	該当事項はありません

(注1) 平成29年6月29日開催の第12期定時株主総会決議により、事業年度を変更しました。

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日 12月31日

なお、第13期事業年度については、平成29年4月1日から平成29年12月31日までの9ヶ月となります。

(注2) 当社の株主は、その有する単元未満株式について次に掲げる権利以外の権利を行使することが出来ない旨定款で定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社の金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等は、Powertech Technology Inc.であります。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1)	臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号(親会社の異動)の規定に基づく臨時報告書 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号(主要株主の異動)の規定に基づく臨時報告書		平成29年5月30日 関東財務局長に提出。
(2)	有価証券報告書 及びその添付書類、 有価証券報告書の確認書	(第12期)	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日	平成29年6月29日 関東財務局長に提出。
(3)	臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書		平成29年6月29日 関東財務局長に提出。
(4)	内部統制報告書 及びその添付書類			平成29年6月29日 関東財務局長に提出。
(5)	四半期報告書、 四半期報告書の確認書	(第13期第1四半期)	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	平成29年8月10日 関東財務局長に提出。
(6)	四半期報告書、 四半期報告書の確認書	(第13期第2四半期)	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日	平成29年11月7日 関東財務局長に提出。
(7)	臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の4(監査公認会計士等の異動)の規定に基づく臨時報告書		平成30年3月7日 関東財務局長に提出。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年3月29日

株式会社テラプロープ
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 井 村 順 子

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 安 藤 隆 之

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社テラプロープの平成29年4月1日から平成29年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益及び包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社テラプロープ及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社テラプローブの平成29年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社テラプローブが平成29年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成30年3月29日

株式会社テラプローブ
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 井 村 順 子
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 安 藤 隆 之
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社テラプローブの平成29年4月1日から平成29年12月31日までの第13期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社テラプローブの平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。